ベトナム株式

厳選30銘柄レポート

2022年度版

編集　亜州リサーチ株式会社
Ashu Research Inc.

掲載銘柄一覧　（ティッカーシンボル順）

ティッカーシンボル	社内コード	会社名	業種	ページ
AAA	Y5319	アンファットプラスチック＆グリーンエンバイロメント	プラスチック	P1
BVH	Y3352	バオ・ベト・ホールディングス	保険	P2
CMG	Y5251	CMC 技術グループ	通信	P3
CTD	Y5361	コテコンズ建設	建設	P4
DCM	Y5401	ペトロベトナムカマウ肥料	石化	P5
DHG	Y3307	DHG 製薬［DHG ファーマシューティカル］	医薬	P6
FPT	Y3312	FPT（※）	通信	P7
GAS	Y5363	ペトロベトナム・ガス	ガス	P8
GEX	Y5617	ジェレックスグループ	電力設備	P9
GMD	Y3347	ジェマデプト	海運	P10
HPG	Y3308	ホアファットグループ	鉄鋼	P11
HSG	Y3361	ホアセン・グループ	鉄鋼	P12
HVN	Y5620	ベトナム航空	航空	P13
KBC	Y3300	キンバックシティグループ	不動産	P14
MSN	Y5258	マッサングループ	食品	P15
PHR	Y5283	フオックホアゴム［フオックホア・ラバー］	ゴム	P16
PLX	Y5599	ベトナム石油総公社［ペトロリメックス］	石油	P17
POW	Y5626	ペトロベトナムパワー	電力	P18
PPC	Y3333	ファーライ火力発電	電力	P19
SAB	Y5591	サイゴンビール・アルコール飲料総公社	飲料	P20
SCS	Y5638	サイゴンカーゴサービス	運輸	P21
SSI	Y3314	SSI セキュリティーズ	証券	P22
STK	Y5569	センチュリー合成繊維	繊維	P23
VCB	Y3351	ベトナム外商銀行［ベトコムバンク］	銀行	P24
VHC	Y3373	ビンホアン	水産	P25
VHM	Y5629	ビンホームズ	不動産	P26
VIC	Y3305	ビングループ	不動産	P27
VJC	Y5593	ベトジェット航空	航空	P28
VNM	Y3302	ベトナム乳業［ビナミルク］	食品	P29
VRE	Y5613	ビンコム・リテール	不動産	P30

(※)FPT は 2021 年 12 月現在外国人枠の制限により買付不可

亜州リサーチ株式会社免責事項
本資料は、藍澤證券株式会社が当社に依頼し、対価を支払うことによって作成されたものです。本資料は年次報告書、目論見書、また当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報などに基づいて作成したものです。記載された決算期が直近に終了した決算期より古い場合や、年次報告書、目論見書などで開示された後の決算数字修正や直近の株式分割等を反映していない場合がありますので、ご了承ください。
本資料は、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。また、本資料による情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。
株価の下落や発行者の経営・財務状況の変化、および為替相場の変動により、損失を被ることがあります。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようにお願い致します。
複写・複製・転訳載・磁気媒体・光ディスクへの入力を許可無く行うことを禁じます。

ベトナム経済の概況

＜急成長中のベトナム＞

国名	ベトナム社会主義共和国	通貨	ドン（VND） 1ドン＝0.0049円（2021年12月14日時点）
人口	9758万人（2020年）	宗教	仏教、カトリック、カオダイ教等
面積	約33万km^2	民族	キン族（86%）、53の少数民族
首都	ハノイ	行政	58省、5直轄地（ハノイ、ホーチミン、ハイフォン、ダナン、カントー）

出所：ベトナム統計総局

はじめに

社会主義国家のベトナムは、中国に追随する形で1986年に開放政策「ドイモイ（刷新）」を導入し、着実に市場経済を浸透させました。2007年にはWTO（世界貿易機関）加入を果たし、外資の取り込みを加速させる中で今やアセアンの急成長エリアに変貌しています。またベトナムの平均年齢はおよそ32歳と若く、豊富な労働力は経済成長の原動力となっています。

新型コロナ禍とベトナムの株式市場

ベトナムはこれまで新型コロナの感染封じ込めに成功し、東南アジアの中で経済一人勝ちの状態を保ってきました。しかし2021年4月末から新型コロナの第4波が広がったことで、ベトナムを取り巻く環境は変化しました。特に感染が深刻だった南部では厳しい隔離措置が実施され、製造業のサプライチェーンは大きな打撃を受けました。実際、2021年7～9月の実質GDP成長率は公式統計が残る2000年以降で初めてマイナスとなりました。国内の感染を抑えるために、政府当局は遅れていたワクチン接種をハノイ、ホーチミンなど都市部を中心に一気に進めました。その結果、一回目の接種率（全国）は7月上旬の3.7%から12月上旬の76.3%と大きく伸び、ハノイやホーチミンでは接種完了率が9割を超えました。また、政府当局は徹底的にコロナを抑え込む「ゼロコロナ」から、経済活動との両立を目指す「ウィズコロナ」に政策を転換しました。

ベトナムの代表的な株価指数であるVN指数は2021年を通して上昇し続け、感染拡大で一時停滞する場面もありましたが、「ウィズコロナ」の宣言や継続的な金融緩和を受けて史上最高値を更新しました。また、活況な相場を背景に国内の個人投資家による新規参入が増え、ベトナムの証券口座数は2021年1～11月に130万件の純増、累計で408万件に達しました。これに伴ってベトナム市場の出来高は急増し、一時取引所の処理能力を上回るなど株式市場への資金流入が続いています。

ベトナム株式市場の概要

	ホーチミン証券取引所	ハノイ証券取引所
立会日	月～金曜日（祝日除く）	
立会時間	前場：9時～11時30分（日本時間11時～13時30分） 後場：13時～14時45分（日本時間15時～16時45分）	
時価総額	28兆4384億円	2兆4222億円
上場銘柄数	404	346
売買単位	100株	100株
呼び値	株価に応じて10～100ドン	一律100ドン
値幅制限	前日終値±7%	前日終値±10%

※ハノイ証券取引所の時価総額と上場銘柄数はUPCoMを除く。2021年12月14日時点、ジャパン証券編集。

ベトナム業界地図 2022

【親】VIC ビングループ

不動産を中核とするコングロマリット。近年、電気自動車の生産に注力。

【子】VRE ビンコム・リテール

「ビンコムセンター」、「ビンコムメガモール」といった商業施設を中心に不動産賃貸を行っている。

【子】VHM ビンホームズ

マンション、住宅街を手掛ける国内大手の不動産ディベロッパー。
（提携）三菱商事、野村不動産

金融・不動産

SSI SSI セキュリティーズ

国内大手の証券会社。モルガンスタンレー、HSBC などを顧客に抱える。
（出資）大和証券

VCB ベトナム外商銀行

ベトナム４大国有商業銀行の一つ。ビザ、マスターカードなどのクレジットカード事業は国内トップクラス。
【親】ベトナム国家銀行
（出資）みずほ銀行

BVH バオ・ベト・ホールディングス

政府系の保険コングロマリット。外資保険会社の進出が目覚ましいベトナムで業界首位を守る。
【親】財務省、政府機関
（出資）住友生命

製造

DHG DHG 製薬

国内勢トップの大手製薬会社。ジェネリック医薬品で国内首位。
（出資）大正製薬

HSG ホセアン・グループ

鋼板・鋼管の国内大手。

HPG ホアファットグループ

製鉄主体のコングロマリット。熱延鋼板の生産に強みを持つ。

AAA アンファット・バイオプラスチック

東南アジア最大のプラスチック包装材メーカー。日本や米国向けにごみ袋などを輸出している。

STK センチュリー合成繊維

国内最大手のポリエステル長繊維糸メーカー。ナイキ、アディダス、ユニクロなどと提携している。

PHR フオックホア・ラバー

ベトナム最大の政府系天然ゴム会社。
【親】ベトナムゴム工業グループ

食品・飲料

SAB サイゴンビール・アルコール飲料総公社
国内最大手のビール会社。ベトナムのビール消費量は東南アジア最大。
【親】ベトナム・ビバレッジ（タイ・ビバレッジの傘下）

KBC キンバックシティグループ
北部の工業団地を開発、運営する。入居する顧客の８割以上が日本、台湾、韓国などの外資企業となっている。

HVN ベトナム航空
国営の航空会社、国内最大手。
（出資）ANA ホールディングス

VJC ベトジェット航空
格安航空会社（LCC）最大手。

VNM ビナミルク
乳製品の国内最大手。

VHC ビンホアン
食用淡水魚パンガシウスの加工輸出最大手。マクドナルドのフィレオフィッシュなどに使われている加工品も主力製品の一つ。

GEX ジーレックス・グループ
大手電機設備メーカー。顧客にベトナム電力総公社、ペトロベトナムなど。
【関連会社】ビグラセラ

SCS サイゴンカーゴサービス
ホーチミンのタンソンニャット国際空港で貨物ターミナルなどの施設を運営。

CTD コテコンズ建設
大手建設会社。ホーチミンなど大都市を中心に活動する。
【主な建造物】 東南アジア有数の高層ビル「ランドマーク 81」（高さ 461.3m、ホーチミン市）

MSN マッサングループ
食品・飼料、小売りのコングロマリット。2019 年にビングループからビンマートを買収し、小売事業を強化。

インフラ

CMG CMC 技術グループ
通信インフラ大手。政府、金融、教育向けに強み。
（取引先）サムスン、SAP など

FPT FPT
ベトナムを代表する IT・通信グループ。教育ビジネスも手掛けており、ベトナム最初のオンライン大学を設立。
（取引先）AWS、マイクロソフトなど

GMD ジェマデプト
港湾の運営と物流を手掛ける大手企業。
（出資）住友商事

PLX ペトロリメックス
政府系石油グループ。ガソリンスタンドを展開。
【親】国家資本管理委員会（CMSC）

【親】ペトロベトナム(非上場)

【子】POW ペトロベトナムパワー
ベトナム電力総公社（EVN）に次ぐ、国内の大手電力会社。

【子】GAS ペトロベトナム・ガス
採掘から供給までを行う国営ガス会社。プロパンガスの供給で国内首位。

【子】DCM ペトロベトナムカマウ肥料
大手肥料メーカー。尿素肥料に強みがあり、国内シェア 35%を誇る。南部メコンデルタ地域を中心に事業を展開。

【子】ペトロベトナム・ドリリング（PVD）
【子】ペトロベトナム化学肥料（DPM）
【子】ペトロベトナム運輸（PVT）
【関連】ペトロベトナム総合サービス（PET）など

PPC ファーライ火力発電
ベトナム北部を拠点とする電力会社。火力発電に強み。
【親】ベトナム電力総公社（EVN）傘下の第二発電総公社（GENCO2）

エネルギー

（出所）FiinPro、Bloomberg、各企業の開示情報、ジャパン証券作成

ベトナム株式銘柄リポート

AAA 社内コード: Y5319

アンファットプラスチック＆グリーンエンバイロメント

An Phat Plastic and Green Environment Joint Stock Company

市場: ホーチミン　　プラスチック

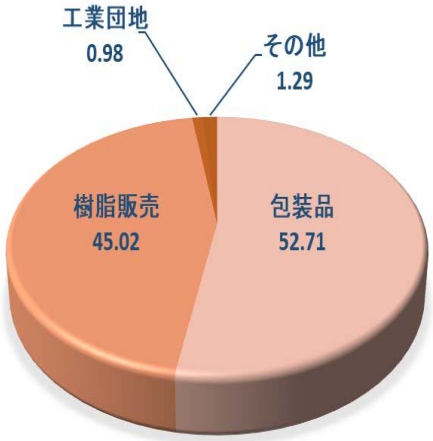
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	20,200	PER (倍)	15.41
52週高値	22,250	PBR (倍)	1.25
52週安値	10,425	時価総額 (百万)	5,994,552

●発行済株式数(百万株) 296.76 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【プラスチック包装品メーカー】
レジ袋、ゴミ袋、農業用フィルムなどプラスチック包装品の製造・販売を主力とする。環境問題への取り組みとして、生分解性の素材を使用しているのが特徴。8カ所の工場で生産する。20年第3四半期にアンビン・プラスチックパッケージングを買収し、工業包装の分野にも進出。これにより、年産能力は12万トンに拡大した。単層包装品メーカーとしては、東南アジア最大。包装品の販売先はほぼ100%海外で、世界70カ国・地域へ輸出する。包装品以外では、原料樹脂の販売と工業団地の開発も手がける(以上、20年末時点)。環境への配慮を一段と強化。環境にやさしい製品へのニーズが急速に高まるなか、23年までに包装売上の50%を生分解性製品へと転換する方針を打ち出している。
【中間増収増益】
21年6月中間期は64.0%増収、28.0%増益で推移している。樹脂販売の売上高が前年同期比111.9%増の3兆2077億ドンに膨らんだことが増収の要因。また、工業包装分野への進出によって、包装品が16.6%増の2兆1000億ドンに伸びたことも寄与している。事業コスト抑制で利益も拡大。売上原価率が89.3→89.1%に低下したことで、粗利益は66.5%増の6031億ドンに拡大した。ただ、販売費が149.4%増の2868億ドンにかさんだことで、最終的な増益率は増収率を下回った。
【21年通期目標と進ちょく率】
21年通期の目標は売上高を前年比21%増の9兆ドン、税引き後利益を94%増の5500億ドンと強気に設定。中間期の進ちょく率は、それぞれ62%と34%で推移している。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	8,011,573	180,260	1,037	-	有償増資1:1
2019/12	9,258,073	460,466	2,325	1,000	株式配当5%
2020/12	7,428,557	262,241	1,310	500	-
2020/6 (中)	3,382,943	126,169	573	-	-
2021/6 (中)	5,548,363	161,468	691	-	-

●主要業務
各種プラスチック包装品の生産・販売

●上場年 2016/11/25　●決算期 12月

●URL
http://www.anphatbioplastics.com

同社製品

BVH 社内コード: Y3352

バオ・ベト・ホールディングス

Bao Viet Holdings

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄 (21年7月発表時点)　保険

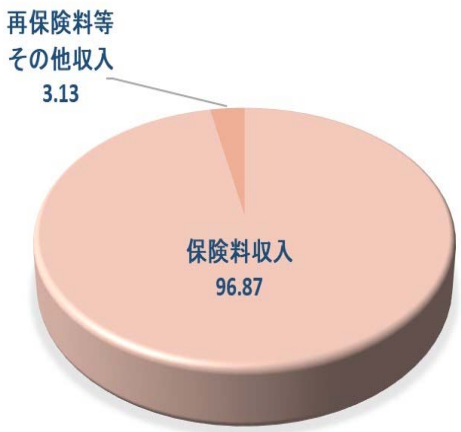
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	56,000	PER (倍)	26.70
52週高値	70,200	PBR (倍)	1.98
52週安値	46,340	時価総額 (百万)	41,569,920

●発行済株式数(百万株) 742.32 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【政府系の保険コングロマリット】
主力業務は生命保険と損害保険。保険以外では、投資、銀行業務なども手がける。財務省などの政府機関が株式の68.0%を保有。日本の住友生命保険も出資している。拠点数は全国63省に支店が179カ所、顧客サービスセンターが生保362カ所、損保600カ所。支払い余力を表すソルベンシー・マージンは、生保が107%(前年は107%)、損保が108%(同108%)となっている。大手企業の代表格。損保の元受収入保険料シェアは17.0%と前年の19.5%からやや縮小したが、依然として業界トップを誇る。第2位のPVI(13.8%)との差も堅持している(以上、20年末時点)。なお、21年7月には、ベトナム評価レポート社によって最も信頼できる損保・生保会社に選出されている。
【中間増収増益】
21年6月中間期は13.5%増収、45.0%増益。生命保険料収入が前年同期比14.9%増の14兆7010億ドンに伸びたことで、2ケタの増収を確保している。損害保険料収入が3.7%減の4兆5257億ドンに低迷したが、全体への影響は限定的だった。事業コストの抑制で利益も拡大。保険金と満期返戻金の支払いが11.8%増の15兆4576億ドン、販管費が11.1%増の3兆3189億ドンにとどまったことで、最終的に45%の増益を達成している。
【新型コロナウィルスの業界への影響】
保険を含む金融業界に対し、新型コロナウィルスのマイナス影響は軽微といえる。21年1～9月期・国内総生産(GDP)成長率の産業別内訳では、金融業が8.37%と高水準。新型コロナウィルスの蔓延に伴う経済活動の規制を受けて、全体の成長率が1.42%にとどまるなかで、大きな伸びを示している。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	29,063,485	1,125,466	1,565	1,000	-
2019/12	33,309,136	1,188,460	1,626	800	-
2020/12	34,524,044	1,597,588	2,097	899	-
2020/6 (中)	16,093,325	627,450	819	-	-
2021/6 (中)	18,273,225	909,546	1,225	-	-

●主要業務
損保・生保・証券・銀行・投資顧問・不動産投資などを展開する持ち株会社

●上場年 2009/6/25　●決算期 12月

●URL
http://www.baoviet.com.vn

本社

CMG　社内コード: Y5251

CMC技術グループ

CMC Corporation

市場:　ホーチミン　　通信

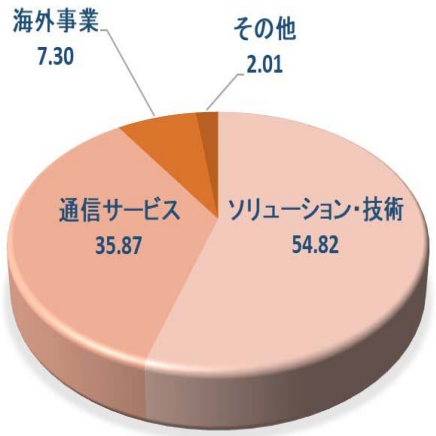
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	60,000	PER (倍)	39.19
52週高値	72,900	PBR (倍)	2.89
52週安値	30,900	時価総額 (百万)	6,000,000

●発行済株式数(百万株)　100.00　(2021/09/30時点)

【IT・通信事業グループ】
主力事業は◎ソリューション・技術(デジタルトランスフォーメーション・システムインテグレーション等)、◎通信サービス(インターネット・データセンター・クラウド等)　◎海外事業(ソフトのオフショア開発・クラウドサービス等)の3本柱。事業ごとに子会社を置き、CMGが持株会社としてこれら子会社を統括する(以上、21年3月末時点)。海外事業が着実に成長。20年に黒字化を達成するなか、今後のさらなる成長も期待される。世界30カ国と事業を展開。主力市場の日本には、オフショア法人を置いている。19年には、韓国のITサービス最大手のサムスンSDS社と包括的な戦略投資協力契約を締結した。
【25年に売上10億米ドルを目指す】
米コンサルティング会社であるマッキンゼーの提言を受け、25年の売上目標を約10億米ドル(20年実績:2億4600万米ドル)に設定。事業別では、ソリューション・技術で4億米ドル超(同1億3500万米ドル)、通信サービスで3億米ドル超(同8800万米ドル)、海外で2億米ドル超(同1800万米ドル)を目指す。
【中間増収増益】
21年9月中間期は16.1%増収、45.6%増益。コロナ禍にありながらも、増収ペースが大幅に加速している(前年同期は0.5%)。事業コストの抑制と財務収支の改善で利益も拡大。売上原価率が81.8→81.0%に低下したことで、粗利益は前年同期比21.1%増の5092億ドンに伸びた。さらに、為替差益の急増や支払利息の縮小などによって、財務収支が129.6%増の121億ドンに拡大したことで、最終的に45%の増益を達成している。

●株価チャート　(13週移動平均)

●売上構成(%)　(2021/03/31 時点)



※内部取引控除前の売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2019/3	5,185,715	159,483	1,842	1,500	無償増資4.088%
2020/3	4,855,806	144,047	1,393	1,000	-
2021/3	5,181,109	175,423	1,531	-	株式配当9%
2020/9 (中)	2,305,279	75,239	666	-	-
2021/9 (中)	2,676,412	109,552	1,096	-	-

●主要業務
システムインテグレーション、インターネットサービス、ソフトウェア開発等のIT関連のサービスと物販

●上場年 2010/01/22　●決算期 3月

●URL
http://www.cmc.com.vn

同社サイトトップページ

CTD 社内コード: Y5361

コテコンズ建設

Coteccons Construction Joint Stock Company

市場: ホーチミン　　建設

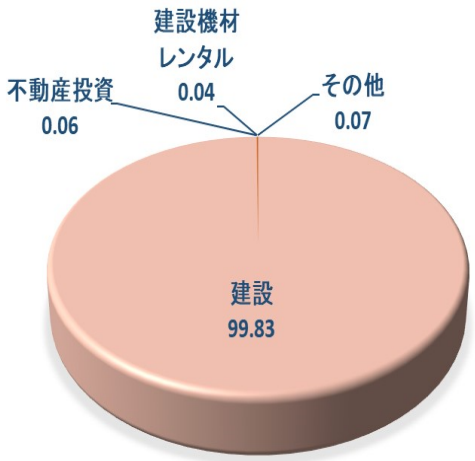
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	109,500	PER (倍)	26.29
52週高値	112,800	PBR (倍)	0.98
52週安値	51,230	時価総額 (百万)	8,133,660

●発行済株式数(百万株) 74.28 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【民間ゼネコン大手】
主力事業は住宅、ホテル、商業施設、産業施設の建設。請負工事だけでなく、設計も含めた総合的なゼネコンを志向している。全国各地で事業を展開し、400以上のプロジェクト実績を誇るほか、ミャンマー、カンボジアなどのアセアン諸国にも進出している。これまでに手がけた目玉プロジェクトとして、アセアン屈指の高さを誇る高層ビル「ランドマーク81」や、ベトナムで初となる国産ブランド車の工場などがある。20年末時点の受注残は9兆ドンで、ほとんどが21年の売上として計上される見通し。建設以外では、建設機材のレンタルなども行うが、売上比率は小さい(以上、20年末時点)。
【中間減収減益】
21年6月中間期は32.0%減収、64.6%減益。新型コロナウィルスがまん延するなか、主力事業である建設の売上高が前年同期比32.0%減の5兆1104億ドンに縮小したことが減収につながった。事業コストが利益を抑制。売上原価率が94.2→95.0%に上昇したことで、粗利益は41.8%縮小した。さらに、人件費がかさんだことで、一般管理費が34.4%拡大。これにより、最終的に6割超の減益を強いられた。
【新型コロナウィルスの建設業界への影響】
建設業界に対し、新型コロナウィルスが深刻な影響をもたらしている。21年1～9月期・国内総生産(GDP)成長率の産業別内訳では、建設業界がマイナス0.58%と全体のプラス1.42%を下回った。感染拡大防止に向けたロックダウン(都市封鎖)に伴う人材と資材の不足で、建設プロジェクトに遅延が生じたことが響いた格好だ。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	28,560,857	1,510,408	18,357	5,000	-
2019/12	23,733,028	710,645	8,856	3,000	-
2020/12	14,558,086	334,375	4,164	3,000	-
2020/6 (中)	7,525,265	280,621	3,494	-	-
2021/6 (中)	5,118,982	99,352	1,353	-	-

●主要業務
住宅、ホテル、商業施設、産業施設の建設

●上場年 2010/1/20　●決算期 12月

●URL
http://www.coteccons.vn

ランドマーク81

DCM 社内コード: Y5401

ペトロベトナムカマウ肥料

PetroVietnam Ca Mau Fertilizer Joint Stock Company

市場: ホーチミン　　石化

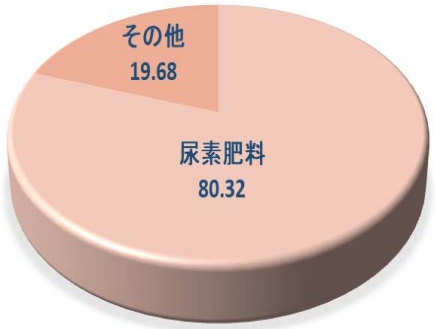
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	36,700	PER (倍)	36.08
52週高値	41,050	PBR (倍)	2.89
52週安値	10,967	時価総額 (百万)	19,428,980

●発行済株式数(百万株) 529.40 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【国営石油会社ペトロベトナム傘下の尿素肥料大手】
主力事業は尿素肥料の製造・販売。カマウ省のカマウ窒素工場(12年操業開始)で製造し、「カマウ肥料」ブランドで販売する。生産販売する肥料(約100万トン)の国内シェアは10%を超える。うち、尿素肥料は35%を誇る。21年にNPK(＊)肥料工場(年産能力30万トン)の操業を開始。成長の原動力として期待されている。販売シェアは5年間で8%を目指す。国外市場にも注力。国内で販売するほか、海外9カ国に30万トンを輸出する。なかでも、カンボジア向けの販売量は、前年比142%増の16万トン超に達した。同国での尿素肥料販売シェアは35～40%。今後はNPK肥料でも15～20%を目指す(以上、全て20年末時点)。
＊肥料の3要素である窒素(N)、リン酸(P)、カリウム(K)。
【主力製品の値上がりが同社を後押し】
肥料販売価格の上昇が同社にとって追い風となっている。この背景には、尿素の国際価格が21年初頭から高騰していることがある。実際、中国での平均価格は、同年第3四半期に前年同期比で79.7%上昇した。
【中間増収増益】
21年6月中間期は29.3%増収、25.1%増益で推移している。尿素肥料の販売価格が前年同期比で25%上昇。これにより、同製品の売上高は21.1%増の3兆3118億ドンに拡大したことが3割増収につながった。また、新たにNPK肥料の売上高を計上したことも寄与している。事業コストの抑制で利益も拡大。支払利息の減少によって財務費用を64.7%削減し、販管費の拡大(43.7%増)を吸収したことで、最終的に25%の増益を確保した。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

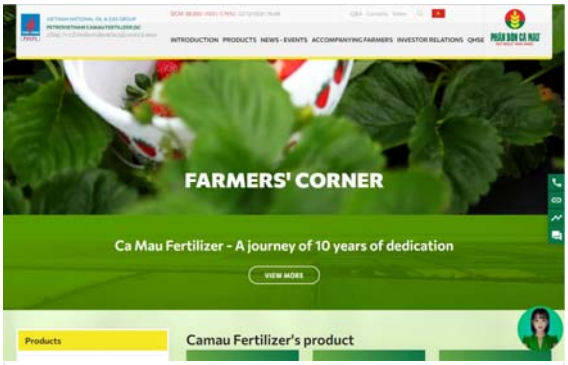
●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	6,689,329	656,145	1,114	900	-
2019/12	7,042,967	426,175	595	600	-
2020/12	7,561,275	661,046	1,017	800	-
2020/6 (中)	3,276,365	356,543	615	-	-
2021/6 (中)	4,236,316	445,906	767	-	-

●主要業務
尿素肥料、NPK(窒素、リン酸、カリ)肥料、DAP(リン酸二安)肥料等の生産販売。

●上場年 2015/03/31　●決算期 12月

●URL
https://www.pvcfc.com.vn



同社サイトトップページ

DHG 社内コード: Y3307

DHG製薬 [DHGファーマシューティカル]

DHG Pharmaceutical Joint Stock Company

市場: ホーチミン　　医薬

●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	113,000	PER (倍)	20.76
52週高値	142,500	PBR (倍)	4.32
52週安値	90,000	時価総額 (百万)	14,774,750

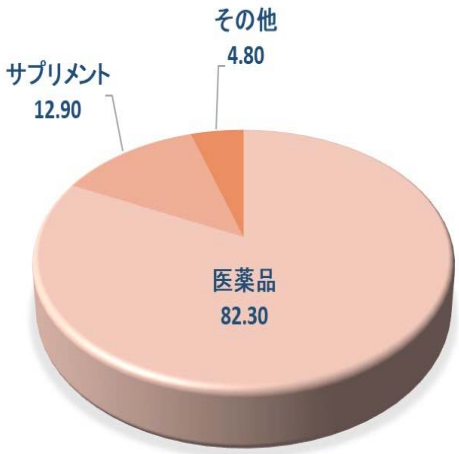
●発行済株式数(百万株) 130.75 (2021/06/30時点)

【大手製薬会社】
主力事業は抗生物質、解熱・鎮痛剤など各種医薬品の生産・販売。筆頭株主として、日本の大正製薬が51.01%を出資している。抗生物質と解熱・鎮痛剤で売上の50%超を占めている。代表的なブランドは前者が「クラメンティン(KLAMENTIN)」、後者が「ハパコル(HAPACOL)」。医薬品以外では、サプリメントなども手がけている。売上の98%は国内向け。残り2%を海外15カ国に輸出している(以上、全て20年末時点の数字)。外資優勢のなかで大きく健闘。米・医療情報会社であるIQVIAのリポート(19年第4四半期)によると、DHGはベトナムの製薬業界(外資含む)で、国内企業として唯一ベスト10に入っている(サノフィ、ノバルティス、ロッシュ、GSK、ファイザー、アストラゼネカ、メルクに次いで第8位)。ただ、ベトナムでは外国製医薬品を選好する傾向が強いため、国産品のシェアは50%弱にとどまっている(政府目標は70%)。

【中間増収増益】
21年6月中間期は17.1%増収、11.8%増益と堅調に推移している。医薬品の売上高が前年同期比17.2%増の1兆5821億ドンに拡大したことが増収の要因。この背景には、国民の健康管理に対する意識が高まるなか、医薬品への支出が拡大したことがある。事業コストの抑制で利益も拡大。売上原価率が49.7→53.5%に上昇したことで、粗利益は8.1%増の9137億ドンにとどまった。しかし、人件費の削減によって、販管費が0.7%減の4633億ドンと小幅ながら縮小。これにより、最終的に2ケタの増益を達成している。

●株価チャート (13週移動平均)

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	3,882,128	653,029	4,451	3,500	-
2019/12	3,896,754	635,388	4,668	4,000	-
2020/12	3,755,619	739,875	5,443	4,000	-
2020/6 (中)	1,678,748	362,675	2,668	-	-
2021/6 (中)	1,965,220	405,415	2,985	-	-

●主要業務
各種医薬品、サプリメントの製造・販売

●上場年 2006/12/21　●決算期 12月

●URL
http://www.dhgpharma.com.vn

主力製品

FPT

社内コード: Y3312

FPT

FPT Corporation

市場: ホーチミン　　VN30指数構成銘柄（21年7月発表時点）　　通信

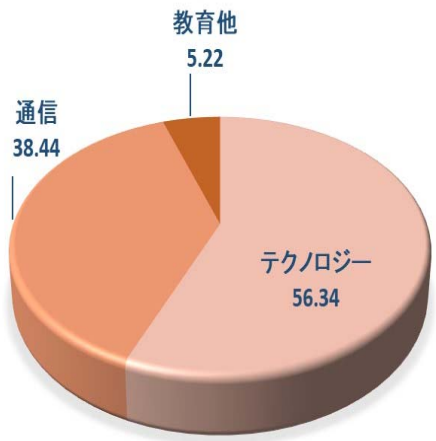
●株価データ	(2021/12/31 時点)	●指標	
株価（VND）	93,000	PER（倍）	22.57
52週高値	101,800	PBR（倍）	5.02
52週安値	49,905	時価総額（百万）	84,394,710

●発行済株式数（百万株）　907.47　（2021/06/30時点）

●株価チャート　（13週移動平均）

【ベトナムを代表するIT・通信グループ】
主力事業はテクノロジー部門と通信部門。テクノロジー部門ではソフト開発受託（AI、IoT、ブロックチェーン、ローコード、クラウドなど）、システム構築（金融、通信、医療など）、ITサービス、デジタルトランスフォーメーション（DX）、通信部門ではTV放送、コンテンツ提供などを手がける。同2部門以外では、教育部門（小中高と大学、学生数5万2005人）と投資部門も展開する。海外市場にも注力。売上全体の40%、税引き前利益の37%を占める。日本（海外売上の50%）、米国（24%）など26カ国・地域に48拠点を置く。ホーチミン上場の傘下企業として、IT・通信機器販売会社のFPTデジタルリテール（FPTが46.53%を出資）がある（以上、20年の数字）。
【DX事業が順調に拡大】
テクノロジー部門の新分野であるDX事業では、20年の売上高が前年比31%増の3兆2190億ドンと高い伸びをみせた。特に、77に上る自社製の製品、サービス、プラットフォームなどが51%増と急拡大。将来的に、利益向上のけん引役として期待される。
【中間増収増益】
21年6月中間期は19.2%増収、17.2%増益と好調に推移している。新型コロナウイルスの影響によるIT需要の拡大を背景に、テクノロジー部門の売上高が前年同期比20.9%増の9兆980億ドン、通信部門が12.6%増の6兆1260億ドンに拡大したことが増収の要因。また、教育・投資等の部門が55.8%増の1兆40億ドンに伸びたことも寄与した。テクノロジー部門に関しては、国内向け事業が40.7%増の2兆4150億ドンと大きく伸びている（海外向けは15.0%増の6兆6830億ドン）。

●売上構成（%）　（2020/12/31 時点）



※純売上高をベースに算出。

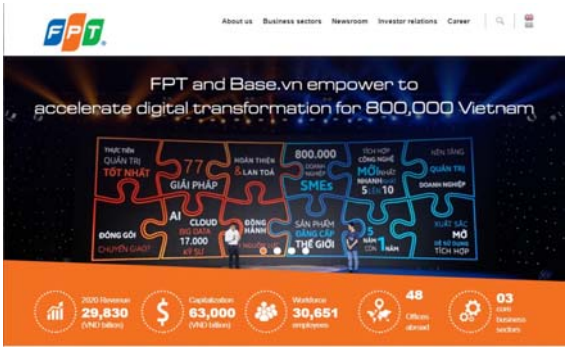
●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	23,213,537	2,620,179	3,546	2,000	株式配当10%
2019/12	27,716,960	3,135,350	3,667	2,000	株式配当15%
2020/12	29,830,401	3,538,008	4,120	2,000	株式配当15%
2020/6（中）	13,610,567	1,625,816	1,805	-	-
2021/6（中）	16,228,035	1,906,174	2,107	-	-

●主要業務
①テクノロジー部門、②通信部門、③教育部門、④投資部門

●上場年 2006/12/13　●決算期 12月

●URL
http://www.fpt.com.vn



同社サイトトップページ

GAS 社内コード: Y5363

ペトロベトナム・ガス

PetroVietnam Gas Joint Stock Corporation

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄 (21年7月発表時点)　ガス

●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	96,200	PER (倍)	23.88
52週高値	128,400	PBR (倍)	3.93
52週安値	70,281	時価総額 (百万)	184,121,990

●発行済株式数(百万株) 1,913.95 (2021/06/30時点)

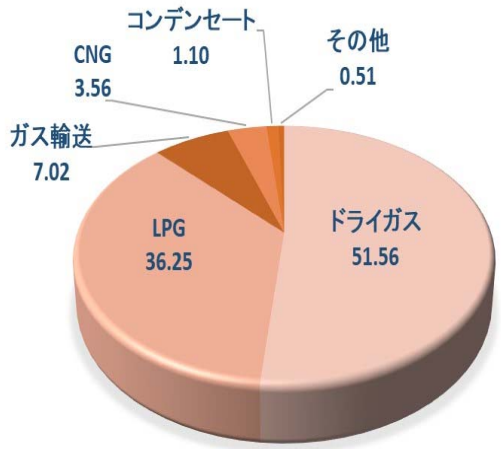
●株価チャート (13週移動平均)

【国営のガス最大手】
ペトロベトナム(国営ベトナム石油ガスグループ)が95.8%を保有するガス最大手。天然ガス田からパイプラインを敷設し、加工(処理工場2カ所)、貯蔵、輸送、販売まで手がける。主力製品はドライガスとLPG(液化石油ガス)。それぞれ100%、65%と国内トップシェアを誇る。また、ドライガスに関しては、80%を発電所向け、11%を肥料工場向けに供給する。大手企業の代表格。子会社として、LPGの小売事業を主力とするベトナムガス販売社(PVG)、天然ガスを供給するベトナムCNG社(CNG)、工場向けに低圧ガス供給を手掛けるペトロベトナム低圧ガス供給社(PGD)の上場企業3社を有する(以上、全て20年末時点)。

【LNG(液化天然ガス)タンク港案件を合弁で展開】
GASとAES投資社(米国のエネルギー企業)は21年9月、ソンミーLNG港(ビントゥアン省)の案件展開に向けて合弁会社を設立することで合意した。投資総額は13億1000万米ドル。当初(第1期)の貯蔵能力は年間360万トンを見込む(その後、900万トンまで増強する予定)。

【中間増収増益】
21年6月中間期は23.2%増収、4.5%増益と堅調に推移している。主力のドライガスとLPGの売上高がそれぞれ前年同期比で19.3%、40.3%拡大したことが増収の要因。LPGに関しては、価格の上昇が大きく寄与している。一方、事業コストの増加と財務収支の減少が利益の伸びを抑制。販管費が1兆2430億→1兆8161億ドンに膨らんだことや、預金金利収入の減少と借入金利の増加で財務収支が6619億→2985億ドンに縮小したことなどで、最終的な増益率は1ケタにとどまった。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

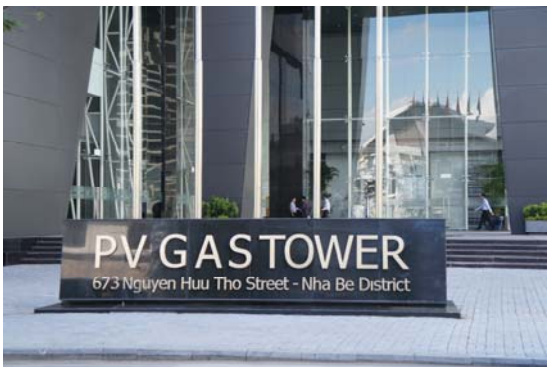
●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	75,611,546	11,453,969	5,838	5,300	-
2019/12	75,005,297	11,902,248	6,059	4,500	-
2020/12	64,134,965	7,854,956	4,028	3,000	-
2020/6 (中)	32,687,867	4,106,096	2,029	-	-
2021/6 (中)	40,272,143	4,291,632	2,116	-	-

●主要業務
ドライガス、LPG(液化石油ガス)、CNG(圧縮天然ガス)、コンデンセートの採集、販売、輸送、貯蔵、加工。

●上場年 2012/5/21　●決算期 12月

●URL
http://www.pvgas.com.vn



PVガスタワー

GEX 社内コード: Y5617

ジェレックスグループ

Gelex Group Joint Stock Company

市場: ホーチミン　　電力設備

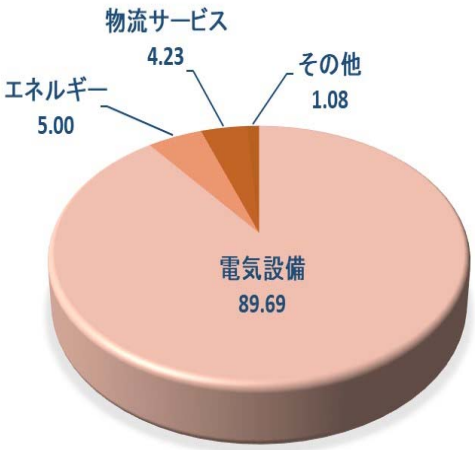
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	40,650	PER (倍)	24.16
52週高値	47,431	PBR (倍)	2.59
52週安値	13,351	時価総額 (百万)	19,846,956

●発行済株式数(百万株) 488.24 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【大手電気設備メーカー】
各種電気設備の生産・販売を主力とする。各子会社の傘下企業を通じて事業展開する一大グループを形成。電気ケーブルを「CADIVI」、電力変圧器を「THIBIDI」、モーターを「HEM」、電気計測器を「EMIC」のブランド名(各企業名)で生産・販売している。製品は主にベトナム電力グループ(EVN)の送電網に供給するほか、カンボジアやミャンマーなどにも輸出する。電気設備以外では、21年第2四半期にビグラセラを子会社化したことで、建設資材の生産・販売と工業団地の運営が事業内容に加わった。その他、エネルギー(風力、太陽光、水力発電)、水道なども手がける。
【風力発電所の商用発電を開始】
21年10月、総出力140MWの風力発電所(第2・3フオンフン発電所と第1・2・3Gelexクアンチ発電所)の商用発電を開始。8.5セント/kWhの優遇買取価格が20年間適用される。同案件では、22年に1580億ドンの利益が予想されている。
【中間増収増益】
21年6月中間期は79.4%増収、68.4%増益と好調に推移している。主力である電気設備の売上高が前年同期比58.4%増の9兆7324億ドンに伸びたことが増収の要因。また、建材子会社のビグラセラを連結対象に組み入れたことも寄与している。事業コストの抑制で利益も拡大。売上原価率が83.4→85.5%に上昇したことで、粗利益の伸び率は55.9%と増収率を下回った。ただ、◎販管費を51.9%増にとどめたこと、◎財務収支の赤字額の拡大幅を19.2%に抑制したこと――などで、最終的に7割増益を達成している。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	13,699,130	942,442	2,186	-	-
2019/12	15,314,986	603,171	1,171	-	無償増資20:3
2020/12	17,948,713	801,705	1,682	-	株式配当9%
2020/6 (中)	7,312,206	354,706	683	-	-
2021/6 (中)	13,114,510	597,375	1,231	-	-

●主要業務
各種電気設備の生産・販売

●上場年 2018/01/18　●決算期 12月

●URL
http://gelex.vn

同社サイトトップページ

GMD 社内コード: Y3347

ジェマデプト

Gemadept Corporation

市場: ホーチミン　　海運

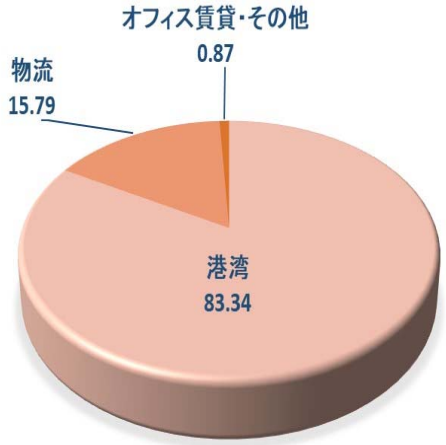
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	47,300	PER (倍)	41.16
52週高値	56,000	PBR (倍)	2.31
52週安値	25,208	時価総額 (百万)	14,255,274

●発行済株式数(百万株) 301.38 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【港湾・物流大手】
港湾と物流を主力事業とする。港湾部門はホーチミン市のフックロン港、同市近郊のビンズオン港、バリアブンタウのジェマリンク深海港に加え、北部のハイフォン市で4港、中部のクアンガイ省で1港のターミナルを運営。税引き前利益の地域別構成は南部が51%を占め、これに北部が41%、中部が8%と続く。物流部門は物流倉庫、重量物運送、航空貨物ターミナル、冷蔵倉庫など多岐にわたり、税引き前利益全体の42%(港湾が58%)を占める(以上、全て20年末時点)。
【ジェマリンク深海港】
国内最大規模(72ヘクタール)のコンテナ港となるジェマリンク深海港は、21年1月に運用を開始した(第1期の年間処理能力150万TEU＊)。同年1～8月期の取扱貨物量は50万TEUに達し、想定より1年早い5月から利益を計上している。第2期工事は21年末に開始する予定。完工後は処理能力が240万TEUへと拡大される。
【中間増収増益】
21年6月中間期は19.0%増収、32.8%増益と好調に推移している。ジェマリンク深海港の運用開始などによって、取扱貨物量が前年同期比55%増の120万TEUに拡大。これに伴い、港湾事業の売上高が22.7%増の1兆2392億ドンに伸びたことが2ケタ増収につながった。事業コストの削減と財務収支の改善で利益も増加。◎のれん償却費の減少によって、販管費が2194億→2112億ドンに減少したこと、◎金融投資益の増加と借入金利の減少に伴い、財務収支の赤字額が798億→417億ドンに縮小したこと――などで、最終的に3割増益を達成している。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

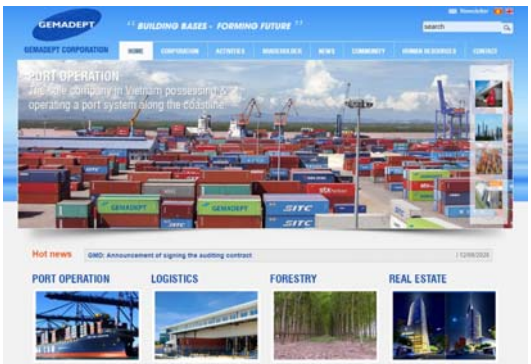
	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	備考
2018/12	2,707,556	1,847,718	6,207	8,000	配当のうち、6500ドンは特別配当
2019/12	2,642,914	517,029	1,602	1,000	-
2020/12	2,605,666	370,932	1,149	1,200	-
2020/6 (中)	1,209,016	217,292	673	-	-
2021/6 (中)	1,439,131	288,663	881	-	-

●主要業務
港湾、物流、オフィス賃貸

●上場年 2002/4/22　●決算期 12月

●URL
http://www.gemadept.com.vn

＊コンテナの処理能力を表す単位。1TEUが20フィートコンテナ1個分に相当。



同社サイトトップページ

HPG 社内コード: Y3308

ホアファットグループ

Hoa Phat Group Joint Stock Company

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄 (21年7月発表時点)　鉄鋼

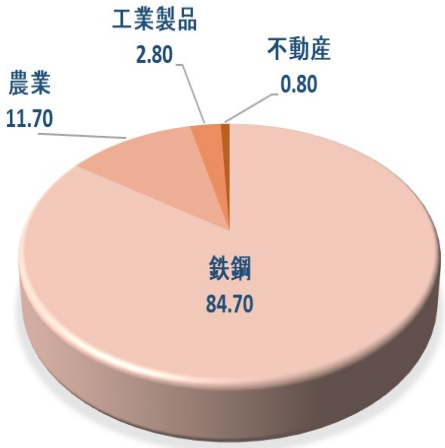
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	46,400	PER (倍)	12.06
52週高値	58,400	PBR (倍)	2.81
52週安値	27,203	時価総額 (百万)	207,543,488

●発行済株式数(百万株) 4,472.92 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【製鉄主体のコングロマリット】
主力事業は鉄鋼(建設鋼材、鋼管、鋼板など)の生産・販売。国内シェアは建設鋼材32.5%、鋼管31.7%でいずれも業界トップを誇る。鉄鋼製品の総生産量は677万トン。うち、建設鋼材が340万トンと5割を占める。また、新たな戦略的製品として熱間圧延コイルを手がけ、年間300万トンの生産能力を誇る(以上、全て20年の数字)。鉄鋼以外では、農業(飼料と畜産)、工業製品、不動産も展開。特に、農業部門は売上比率が19年と20年にそれぞれ13%、12%に達し、18年の8%から上昇している。
【持続的な成長を堅持】
10年から19年に建設鋼材の販売量は4.8倍に拡大。伸び率は業界全体の2.2倍を大幅に上回っている。また、20年に関しても市場全体が1.2%のマイナス成長に沈むなか、同社はプラス22.5%成長と突出した実績を残した。今後の成長にも期待。経営陣は20年3月、今後6年間で年産能力を500万トン増強すると発表している。
【中間増収増益】
21年6月中間期は67.2%増収、232.1%増益。新型コロナウイルスがまん延するなかでも、業績の拡大が顕著だ。鉄鋼の販売量が430万トンに達し、前年同期比で60%以上伸びたことが増収につながった。事業コストの抑制と財務収支の改善で利益も急拡大。売上原価率の低下によって(81.2→70.3%)、粗利益は163.2%増の19兆6601億ドンに膨らんだ。さらに、投資の譲渡益計上と利息収入の増加によって、財務収支の赤字額が9404億→2444億ドンに縮小したことで、3.3倍の増益を達成した。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	55,836,458	8,573,014	3,105	-	株式配当30%
2019/12	63,658,193	7,527,443	2,074	500	株式配当20%
2020/12	90,118,503	13,450,300	3,846	500	株式配当35%
2020/6 (中)	39,654,910	5,028,114	1,089	-	-
2021/6 (中)	66,295,230	16,698,961	3,524	-	-

●主要業務
鉄鋼(建設鋼材、鋼管、鋼板)、その他工業製品、不動産、農業(飼料と畜産)

●上場年 2007/11/15　●決算期 12月

●URL
http://www.hoaphat.com.vn

本社

HSG 社内コード: Y3361

ホアセン・グループ

Hoa Sen Group

市場: ホーチミン　　鉄鋼

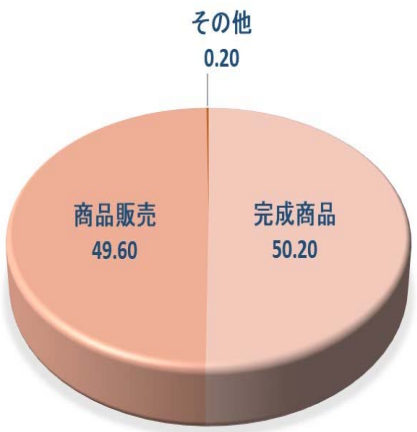
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	37,400	PER (倍)	15.00
52週高値	51,300	PBR (倍)	2.04
52週安値	18,591	時価総額 (百万)	16,616,820

●発行済株式数(百万株) 444.30 (2021/3/31時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【鋼板・鋼管大手】
主力事業は鋼板、鋼管など各種鉄鋼製品の生産・販売。亜鉛メッキ鋼板(トタン)で国内トップ(34.1%)、鋼管でホアファットグループ(HPG)に次ぐ第2位(16.7%)のシェアを誇る(数字は20年1～11月期)。その他、各種塩ビ管の生産も手がける。国内全域に536カ所の販売拠点を保有。また、南アジア、欧米など世界85カ国に64万4000トン(全体の約4割)を輸出している(20年9月末時点)。販売量は右肩上がりで伸びていたが、19年に輸出の減少と国内市場の競争激化で20.2%減の149万トンに落ち込んだ。しかし、20年に輸出が伸びたことで、162万トンに回復した。
【業界動向】
21年1～6月期の鉄鋼市場は、国内販売が緩やかな伸びに対して、輸出が成長を牽引している。鉄鋼全体(建設用、鋼管、亜鉛メッキ鋼を含む)の販売量は910万トン。うち、輸出が前年同期比72.5%増の240万トンと急拡大している。
【中間大幅増益】
21年3月中間期は61.4%増収、336.2%増益。市場の回復によって、亜鉛メッキ鋼板と鋼管の販売量がそれぞれ前年比で56.6%と42.2%伸びたことで、6割増収を達成した。原価率の低下と財務収支の改善で利益も拡大。◎売上原価率が83.6→82.7%に低下したこと、◎財務収支の赤字額が3511億→1609億ドンに縮小したこと――などで、最終利益は4.4倍に拡大した。
【21年通期目標と進ちょく率】
21年の通期目標は、売上高を前年比20%増の33兆ドン、税引き後利益を30%増の1兆5000億ドンとやや強気に設定。中間期の進ちょく率は、それぞれ60%、111%と好調に推移している。

●売上構成(%) (2020/9/30 時点)



※総売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/9	34,441,429	409,234	928	-	株式配当10%
2019/9	28,034,775	361,352	781	-	株式配当5%
2020/9	27,530,750	1,153,328	2,492	-	株式配当10%
2020/3 (中)	12,354,809	382,967	827	-	-
2021/3 (中)	19,945,580	1,670,623	3,610	-	-

●主要業務
鋼板、鋼管など各種鉄鋼製品と各種塩ビ管の生産・販売

●上場年 2008/12/5　●決算期 9月

●URL
http://www.hoasengroup.vn

同社サイトトップページ

HVN 社内コード: Y5620

ベトナム航空

Vietnam Airlines Joint Stock Company

市場: ホーチミン　　航空

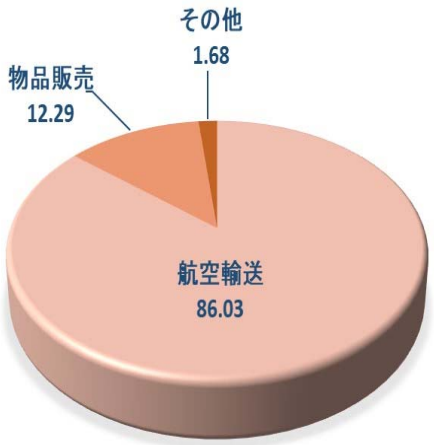
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	23,150	PER (倍)	−
52週高値	30,650	PBR (倍)	−
52週安値	18,665	時価総額 (百万)	32,833,414

●発行済株式数(百万株) 1,418.29 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【大手国営航空会社】
ベトナムのナショナル・フラッグ・キャリア。同国政府が86.2%、日本のANAホールディングスが8.8%を出資する。107機を保有し、国内64路線、海外64路線に就航。グループ(パシフィックエアラインズ含む)の国内シェアは、51.3%と業界トップを誇る。また、スカイチーム(2010年に加盟)のメンバーとして、世界各地の航空会社とも連携している(以上、全て20年末時点)。新型コロナウィルスの影響で経営環境が激変。15年以降、グループの年間フライト数、搭乗客数ともに伸び続けていたが、20年にはそれぞれ40.4%、43.8%の減少に転じている。
【監理銘柄に指定】
ホーチミン証取は21年11月3日からHVN株を監理銘柄に指定した。21年中間期に8兆ドン超の最終赤字を計上したほか、資本金を上回る17兆8080億ドンの累積損失を抱えたため。なお、取引時間は後場(13時～14時45分)のみに制限されていたが、11月5日に解除されている(監理銘柄の指定は継続)。
【中間赤字幅拡大】
21年6月中間期は43.6%減収を強いられるなか、8兆4582億ドンの赤字を計上(前年同期は5兆1436億ドンの赤字)。新型コロナウィルスの影響を受けて、航空輸送の売上高が前年同期比50.7%減の9兆5265億ドンに縮小したことが減収につながった。事業コストが利益を圧迫。4割減収を余儀なくされたことで、事業費(売上原価に相当。燃料費など)を賄いきれず、6兆3721億ドン(前年同期は3兆902億ドン)の粗損失を計上した。販管費を2兆959億→1兆5190億ドンに削減したものの、効果は限定的で、最終的に赤字幅が急拡大した。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	96,810,642	2,335,040	1,747	1,000	−
2019/12	98,228,084	2,345,802	1,654	800	−
2020/12	40,538,339	−10,927,035	−7,704	−	−
2020/6 (中)	24,808,315	−5,143,598	−3,627	−	−
2021/6 (中)	13,996,948	−8,458,218	−5,964	−	−

●主要業務
国内外での航空輸送サービス

●上場年 2019/05/07　●決算期 12月

●URL
http://www.vietnamairlines.com

同社航空機

KBC 社内コード: Y3300

キンバックシティグループ

Kinh Bac City Development Share Holding Corporation

市場: ホーチミン　　不動産

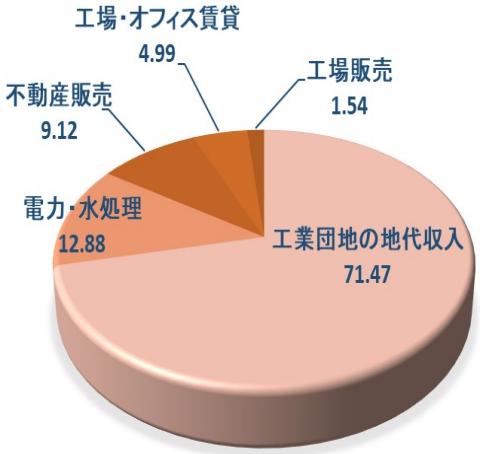
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	60,800	PER (倍)	127.46
52週高値	62,500	PBR (倍)	2.76
52週安値	25,300	時価総額 (百万)	28,561,408

●発行済株式数(百万株) 469.76 (2021/06/30時点)

【北部を拠点とする工業団地の開発運営会社】
クエボ工業団地(バクニン省、同社が本社を置く)をはじめ、北部を中心に工業団地の運営と都市区の不動産開発を展開。北部以外では中部のダナン、南部のホーチミン市などでも事業を行う。保有する工業団地面積は、20年末時点で合計4713ヘクタール(国内全体の5%)。このほか、都市開発用地として918ヘクタールを保有する。工業団地の進出企業は、外資企業が90%超を占めているため、外国直接投資(FDI)が業績に大きく影響する。台湾大手企業による新たな動き。フォックスコングループはKBCのクアンチャウ工業団地で、MacBookやIPadの工場建設を計画している(21年1月に当局から認可を受ける)。
【第三者割当増資を実施】
21年10月、第三者向けの有償増資を実施した。3万4096ドン/株で計1億株を発行し、3兆4100億ドンを調達した。調達した資金のうち、5340億ドンを運転資金、1兆5000億ドンを子会社チャンカット都市開発社への投資、1兆3760億ドンを負債の再構築に充当する。
【中間増収増益】
21年6月中間期は278.3%増収、1158.1%増益と好調に推移している。工業団地の地代収入が342.1%拡大したことが増収の要因。また、不動産販売が184.1%伸びたことも寄与している。事業コストの抑制で利益も急拡大。売上原価率が50.9→42.9%に低下したことで、粗利益は340.1%増の1兆5721億ドンに膨らんだ。さらに、販管費を142.6%増に抑え、財務赤字の拡大(112.0%増)を吸収し、最終的に12倍超の増益を達成している。

●株価チャート (13週移動平均)

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	2,491,179	746,155	1,588	1,000	-
2019/12	3,209,906	918,362	1,955	-	-
2020/12	2,150,963	224,033	477	-	-
2020/6 (中)	727,333	50,873	108	-	-
2021/6 (中)	2,751,776	640,045	1,362	-	-

●主要業務
工業団地の運営

●上場年 2009/12/18　●決算期 12月

●URL
http://www.kinhbaccity.vn

同社サイトトップページ

MSN 社内コード: Y5258

マッサングループ

Masan Group Corporation

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄 (21年7月発表時点)　食品

●株価データ (2021/12/31 時点)

株価 (VND)	171,000
52週高値	175,000
52週安値	79,191

●指標

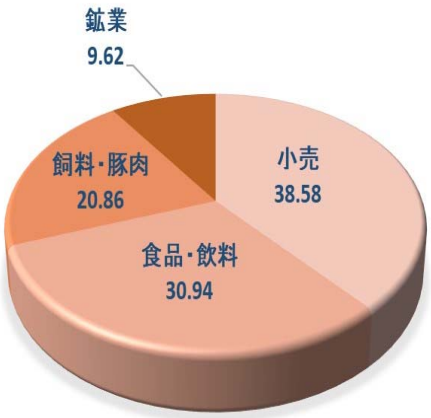
PER (倍)	162.23
PBR (倍)	9.45
時価総額 (百万)	201,870,630

●発行済株式数(百万株) 1,180.53 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【小売、食品・飲料事業を中核とするコングロマリット】
小売、食品・飲料、家畜用飼料・豚肉を主力とする。傘下企業を通じて事業を展開。持株会社のクラウンX社(グループの保有比率は84.8%)を通じて出資するビンコマース社(VCM)、マッサン・コンシューマー社(MCH)の2社がそれぞれ小売、食品・飲料を手がける。また、子会社のマッサン・ミートライフ社(MML)が飼料・豚肉を担う。このほか、子会社のマッサン・ハイテク・マテリアルズ社(MHT)が鉱業(タングステンの鉱山と精錬)、関連会社のテクコムバンク(株式の15.0%を直接保有)が金融を手がける(以上、20年末の数字)。M&Aで業容拡大。19年末、ビングループ(VIC)から小売事業会社(スーパー、コンビニ)のVCMを買収した。また、20年6月には、VCMの親会社となるクラウンX社を設立している。今後はVCMを中心に、ビジネスプラットフォーム(不特定多数の顧客に対し、複数の商品、サービスを柔軟に提供できる環境)を構築していきたい考え。この一環として、21年4月にVCMが運営するスーパーとコンビニで金融サービスを提供する計画を発表している。
【中間増収増益】
21年6月中間期は16.4%増収、734.6%増益で推移している。食品・飲料の売上高が前年同期比7.3%増の10兆9987億ドン、飼料・豚肉が33.9%増の9兆6349億ドンに拡大。これにより、小売の低迷(6.0%減の14兆4555億ドン)をカバーし、2ケタの増収を確保した。関連会社からの利益拡大とコストの抑制で大幅増益を達成。関連会社(主にテクコムバンク)からの利益が74.1%増の1兆9710億ドンに膨らんだことや、販売費が14.5%減の5兆3971億ドンに縮小したことなどで、最終利益は8.3倍に拡大した。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	38,187,617	4,916,497	4,561	-	-
2019/12	37,354,087	5,557,571	4,766	1,000	-
2020/12	77,217,808	1,233,982	1,054	-	-
2020/6 (中)	35,403,969	117,254	100	-	-
2021/6 (中)	41,196,155	978,613	833	-	-

●主要業務
小売、食品・飲料、家畜用飼料・豚肉、鉱業、金融など

●上場年 2009/11/5　●決算期 12月

●URL
http://www.masangroup.com

主力製品のチンスブランド

PHR 社内コード: Y5283

フオックホアゴム ［フオックホア・ラバー］

Phuoc Hoa Rubber Joint Stock Company

市場: ホーチミン　　ゴム

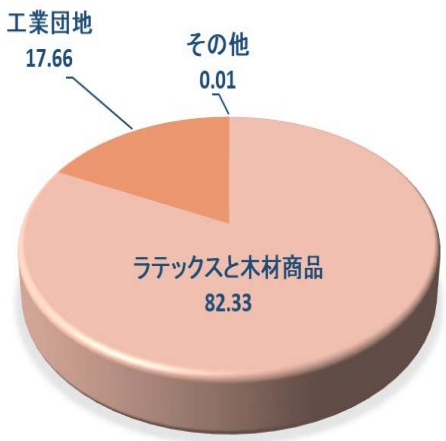
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	71,300	PER (倍)	9.24
52週高値	76,800	PBR (倍)	3.21
52週安値	44,157	時価総額 (百万)	9,661,150

●発行済株式数(百万株) 135.50 (2021/06/30時点)

【政府系のゴムプランテーション大手】
天然ゴムの栽培と加工を主力とする。国営ベトナムゴム工業グループ(GVR)が株式の3分の2を保有する。20年は自社ゴム園から1万1536トンのラテックスを収穫し、3カ所の工場(年産能力は合計3万3000トン)で原料を製品に加工している。自社ゴム園のほか、外部からも原料を調達する(20年は2万129トンを調達)。子会社を通じてカンボジアでゴム園(栽培面積7662ヘクタール)を経営するほか、工業団地の経営も手がけている。
【工業団地経営に注力】
ビンズオン省で、タンビン工業団地(80%出資)を展開。20年に8.01ヘクタールの新規誘致によって、入居面積が210.64ヘクタール(総面積の86.15%)に達した。また、自社ゴム園を工業団地へ転換する計画(25年まで)に関連し、タンビン工業団地の第2期拡張(1055ヘクタール)に向けた手続きを進めている。
【中間増収減益】
21年6月中間期は52.9%増収、70.1%減益で推移している。主力のラテックスと木材商品が前年同期比90.9%増の7246億ドンに膨らんだことが増収の要因。工業団地が71.4%減の331億ドンに縮小したものの、売上全体へのマイナス影響は限定的だった。一方、原価率の上昇と特殊要因のはく落で利益は縮小。売上原価率が70.7→83.0%に上昇したことで、粗利益は11.3%減の1290億ドンに縮小している。さらに、土地譲渡に絡む補償金収入のはく落(前年同期は4561億ドンを計上)に伴い、特別利益が4843億→145億ドンに急減したことで、最終的に7割の減益を強いられている。

●株価チャート (13週移動平均)

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※総売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	1,557,797	628,318	3,911	2,000	-
2019/12	1,638,843	449,891	2,536	3,000	-
2020/12	1,631,648	1,081,918	7,711	2,500	-
2020/6 (中)	495,449	536,064	3,956	-	-
2021/6 (中)	757,787	160,071	1,181	-	-

●主要業務
天然ゴムの栽培と加工、ゴムの材木販売、工業団地経営など

●上場年 2009/8/18　●決算期 12月

●URL
http://www.phr.vn

同社サイトトップページ

PLX 社内コード: Y5599

ベトナム石油総公社 [ペトロリメックス]

Vietnam National Petroleum Group

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄 (21年7月発表時点)　石油

●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	53,900	PER (倍)	78.57
52週高値	62,400	PBR (倍)	2.80
52週安値	44,568	時価総額 (百万)	68,388,859

●発行済株式数(百万株) 1,268.81 (2021/06/30時点)

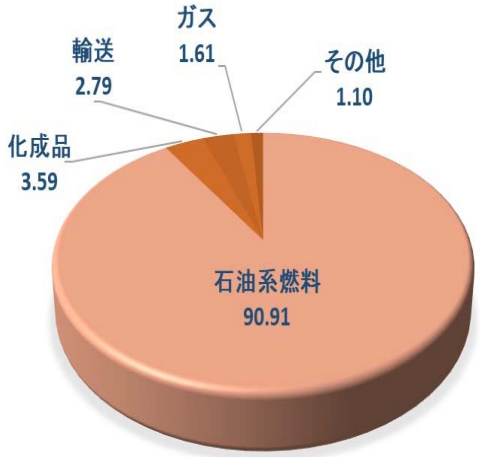
●株価チャート (13週移動平均)

【政府系石油グループ】
「ペトロリメックス」ブランドの石油系燃料と製品の販売を手がけるグループ企業(子会社52社、関係会社12社)。全国62省・市に展開する5500超(うち、直営2700)のガソリンスタンド網を通じて販売する。ガソリンの販売量では、約50%の国内シェアを握る。航空燃料の販売にも注力。LCC(格安航空会社)大手のベトジェット航空(VJC)向けを独占するほか、海外航空会社30社にも供給している。燃料販売以外では、燃料輸送、石油化学製品の販売、ガスの販売なども手がける。株式の75.9%をベトナム政府直属の国家資本管理委員会(CMSC)が保有。また、ENEOSグループも戦略的パートナーとして出資している。外国人の保有比率は20%以内に制限されている(以上、全て20年末時点)。

【ENEOS社が株式を追加取得】
ENEOS社はPLXが保有する金庫株を21年3月と6月に2500万株ずつ取得した(計5000万株)。これにより、ENEOSグループの保有比率は9.0→12.9%に拡大している。

【中間黒転】
21年6月中間期は30.6%増収を達成するなか、2兆1589億ドンの純利益を計上(前年同期は8161億ドンの赤字)。原油(WTI)価格の上昇とロックダウン(都市封鎖)の緩和を背景に、石油系燃料の売上高が前年同期比で28.2%拡大したことが3割増収につながった。事業コストの抑制と財務収支の改善で黒字転換。売上原価率が95.1→91.0%に低下したことで、粗利益が139.5%増の7兆6211億ドンに拡大した。さらに、借入金利と為替差損の減少で財務収支が456億ドンの赤字から848億ドンの黒字に転換したことなどで、最終的に黒字を回復した。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	191,932,474	3,747,899	2,859	2,600	-
2019/12	189,603,525	4,157,779	3,166	3,000	-
2020/12	123,918,650	988,465	686	1,200	-
2020/6 (中)	65,185,419	-816,069	-738	-	-
2021/6 (中)	85,115,973	2,158,912	1,495	-	-

●主要業務
石油系燃料の販売

●上場年 2017/04/21　●決算期 12月

●URL
http://www.petrolimex.com.vn

同社サイトトップページ

POW 社内コード: Y5626

ペトロベトナムパワー

PetroVietnam Power Corporation

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄（21年7月発表時点）　電力

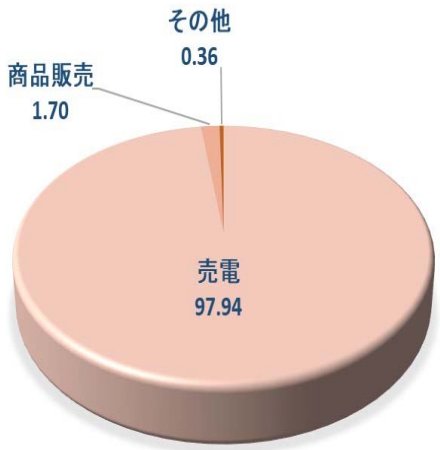
●株価データ	(2021/12/31 時点)	●指標	
株価（VND）	17,500	PER（倍）	17.51
52週高値	19,500	PBR（倍）	1.38
52週安値	9,816	時価総額（百万）	40,982,725

●発行済株式数(百万株)　2,341.87　（2021/06/30時点）

●株価チャート　（13週移動平均）

【ペトロベトナム傘下の大手電力会社】
ペトロベトナム(国営ベトナム石油ガスグループ)が79.94%の株式を保有。発電所は子会社を含め、北部から南部まで7カ所(ガス4、石炭1、水力2)を有する。総出力は4205MW(国内シェア6%)で、国内2位の規模を誇る(以上、全て20年末時点)。発電所の増設にも注力。東南部のドンナイ省で、第3・第4ニョンチャックガス発電所の建設を計画している。国内初の液化天然ガス(LNG)発電所となる。23～24年の稼働を見込む。さらに、第1・第2中部ガス発電所、第3カーマウ発電所などの建設を通じ、35年までに総出力5760～9560MWを目指す。
【子会社を売却】
21年3月、子会社のガスオイル機械設備株式会社(PVM)に対する全保有株(1993万1430株)を売却した。これにより調達した5475億ドンは、第3・第4ニョンチャックガス発電所の建設資金に充当する。
【中間減収増益】
21年6月中間期は0.4%減収、13.4%増益で推移している。商品販売の売上高が前年同期比51.3%減の1188億ドンの落ち込んだことが減収の要因。ただ、主力の売電が0.5%増の15兆4743億ドンに伸びたことで、全体としては小幅な減収にとどまっている。事業コストの抑制と財務収支の改善で利益は拡大。◎貸倒引当金への繰入額が減少し、販管費が5174億→3811億ドンに縮小したこと、◎子会社の売却益として3060億ドンを計上し、財務収支が2922億ドンの赤字から1027億ドンの黒字に転換したこと――などで、最終的に2ケタの増益を達成している。

●売上構成(%)　（2020/12/31 時点）



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	備考
2018/12	14,835,199	431,442	174	－	18年7～12月の変則決算
2019/12	35,375,969	2,531,961	1,027	300	－
2020/12	29,731,734	2,365,015	999	200	－
2020/6（中）	15,683,054	1,197,444	468	－	－
2021/6（中）	15,624,495	1,358,238	580	－	－

●主要業務
発電・売電

●上場年 2019/01/14　●決算期 12月

●URL
http://www.pvpower.vn

同社サイト

PPC 社内コード: Y3333

ファーライ火力発電

Pha Lai Thermal Power Joint Stock Company

市場: ホーチミン　　電力

●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	24,050	PER (倍)	7.62
52週高値	25,800	PBR (倍)	1.57
52週安値	18,873	時価総額 (百万)	7,710,671

●発行済株式数(百万株) 320.61 (2021/06/30時点)

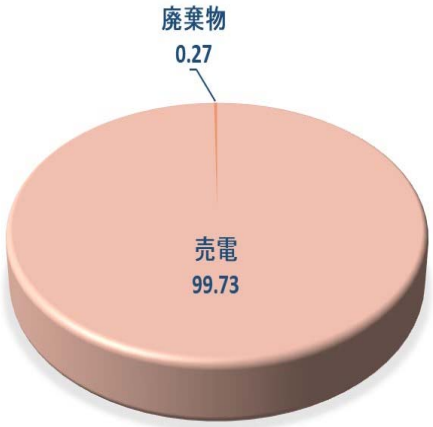
●株価チャート (13週移動平均)

【国営の火力発電大手】
ベトナム北部地域に電力を供給。20年末時点で、ベトナム電力総公社(EVN)グループ傘下のEVN GENCO2社が株式51%を保有する。発電所別の発電能力は、1983年に建設された第一発電所が44万kW(設備はソ連製)、2001年に建設された第二発電所が60万kW。20年の総発電量は、前年比4.6%減の57億7673万kWhだった。なお、第二発電所の建設で日本国際協力銀行(JBIC)から借り入れた円建て債務は、19年末までに返済が完了している。

【21年の発電目標は弱気】
21年の発電目標は、前年比23.8%減(うち、第一発電所は56.4%減、第二発電所は8.2%減)の44億267万kWhと弱気に設定。背景には、売電先のEVNが石炭火力発電からの調達を抑える方針を示していることがある。

【中間減収減益】
21年6月中間期は48.9%減収、37.7%減益で推移している。EVNの方針に、第二発電所の技術的な問題が重なり、発電量が前年同期比48.6%減の17億8600万kWhに縮小。これにより、5割の減収を強いられた。財務収支の改善で最終利益を確保。大幅な減収の中、発電所の人件費やメンテナンス費などのコストを賄いきれず、粗利益が459億ドンの赤字に転落した(前年同期は3346億ドンの黒字)。しかし、配当収入が1428億→2869億ドンに増加したほか、長期金融投資の損失引当金からの戻入を計上したことで、財務収支が1736億→3528億ドンに拡大。これにより、粗利益の赤字を吸収し、最終的に黒字を確保した。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	7,116,832	1,122,452	3,501	2,700	-
2019/12	8,182,925	1,260,867	3,933	2,500	-
2020/12	7,929,383	1,011,036	3,153	5,894	-
2020/6 (中)	4,499,702	415,005	1,294	-	-
2021/6 (中)	2,297,474	258,676	807	-	-

●主要業務

発電・売電

●上場年 2007/1/26　●決算期 12月

●URL

http://www.ppc.evn.vn

同社サイトトップページ

SAB 社内コード: Y5591

サイゴンビール・アルコール飲料総公社

Saigon Beer - Alcohol - Beverage Corporation

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄 (21年7月発表時点)　飲料

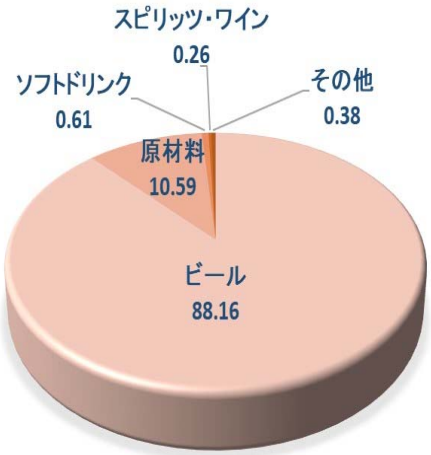
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	151,000	PER (倍)	21.16
52週高値	209,315	PBR (倍)	4.65
52週安値	139,800	時価総額 (百万)	96,833,280

●発行済株式数(百万株) 641.28 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【大手ビール会社】
主力事業は各種ビールの生産・販売。国内に26カ所の工場を保有する。年産能力は22億リットル。他にスピリッツ、ソフトドリンクもあるが、規模は小さい。ビールの生産量シェアは約4割で、業界トップを誇る(ベトナムビール・アルコール飲料協会の18 年調査による)。20年から業績が下降傾向に。15年から19年に売上高が27兆1000億→37兆9000億ドン(1.4倍)と好調に伸びた。しかし、20年には前年比で26%縮小している。民営化の推進。16年12月の上場時には商工省が89.6%の株式を保有していたが、17年12月に53.6%をベトナム飲料社(タイの飲料大手タイ・ビバレッジの傘下会社)に売却した。20年末時点では、ベトナム飲料社が53.6%、国家資本投資公社が36.0%(20年8月に商工省から移管)を保有している。
【ビール市場に逆風】
ビール市場に逆風が吹いている。20年1月に政府が飲酒運転に対する罰金額を引き上げるなど、罰則規定を厳格化。さらに、その直後に新型コロナウイルスの影響を受けて、外出規制措置を実施したことによって、飲食店での飲酒需要が低迷している。
【中間増収増益】
21年6月中間期は8.7%増収、2.9%増益。販促活動の強化で、ビールの売上高が前年同期比8.3%増の11兆6723億ドンに伸びたことが増収につながった。また、原材料が12.1%拡大したことも寄与している。一方、事業コストが利益の伸びを抑制。広告・販促費の急増を受け、販売費が43.6%増の1兆9453億ドンにかさんだことで、最終的な増益率はやや小幅にとどまっている。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	35,948,553	4,177,432	6,143	5,000	-
2019/12	37,899,060	5,053,364	7,557	3,500	-
2020/12	27,961,324	4,723,497	7,133	3,500	-
2020/6 (中)	12,043,844	1,864,691	2,798	-	-
2021/6 (中)	13,087,563	1,919,558	2,873	-	-

●主要業務
ビール、スピリッツ、ソフトドリンクの製造・販売

●上場年 2016/12/6　●決算期 12月

●URL
http://www.sabeco.com.vn

同社製品

SCS 社内コード: Y5638

サイゴンカーゴサービス

Sai Gon Cargo Service Corporation

市場: ホーチミン　　運輸

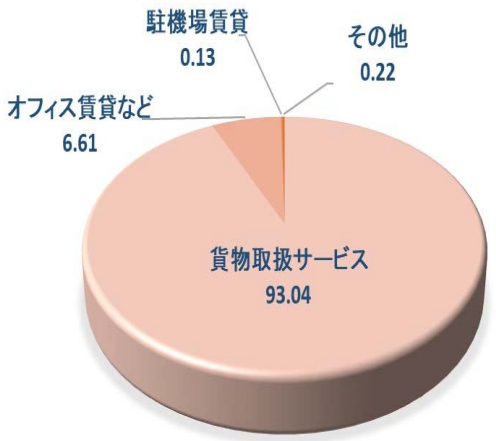
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	160,000	PER (倍)	18.80
52週高値	160,000	PBR (倍)	9.38
52週安値	117,743	時価総額 (百万)	9,270,400

●発行済株式数(百万株) 57.94 (2021/06/30時点)

【航空貨物取扱サービス会社】
ホーチミン市の玄関口であるタンソンニャット空港を拠点に、荷渡し、保管などの航空貨物取扱サービスを手がける。同空港内に、自社専用のSCSC貨物ターミナル(14万3000平米)を保有。同ターミナルは、①駐機場(5万2421平米=ボーイング747Fを3機またはエアバスA321を5機、同時に駐機可)、②貨物ステーション(2万6670平米)、③倉庫・駐車場・オフィスなど(6万4000平米)からなる。貨物取扱量は右肩上がりで伸びていたが、20年に新型コロナウィルスの影響で3.8%減の21万111トンに縮小した。主な顧客はベトジェットエア、ルフトハンザ・カーゴ、シンガポール航空カーゴなど。航空貨物以外では、オフィスの賃貸業務も手がける。
【中間増収増益】
21年6月中間期は23.4%増収、28.6%増益と好調に推移している。市況の回復を背景に、貨物取扱量が前年同期比21.6%増(国際貨物:17.1%増、国内貨物:34.8%増)に拡大。これにより、貨物取扱サービスの売上高が24.6%拡大したことが2割増収につながっている。事業コストの抑制で利益も拡大。売上原価率の低下で(21.8→20.4%)、粗利益は25.6%増の3221億ドンに伸びた。さらに、一般管理費を4.0%増に抑えたことなどで、増収率を上回る増益を達成している。
【21年通期目標と進ちょく率】
21年の目標は、売上高を前年比13%増の7800億ドン、税引き前利益を8%増の5400億ドンに設定。1～9月期の進ちょく率は、それぞれ74%、81%と堅調に推移している。

●株価チャート (13週移動平均)

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	675,369	437,132	8,145	7,200	-
2019/12	747,976	502,180	9,306	8,000	-
2020/12	692,853	464,409	8,510	8,000	-
2020/6 (中)	327,881	221,193	4,060	-	-
2021/6 (中)	404,662	284,564	5,265	-	-

●主要業務
航空貨物取扱サービス

●上場年 2018/08/03　●決算期 12月

●URL
http://www.scsc.vn

同社サイトトップページ

SSI 社内コード: Y3314

SSIセキュリティーズ

SSI Securities Corporation

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄（21年7月発表時点）　**証券**

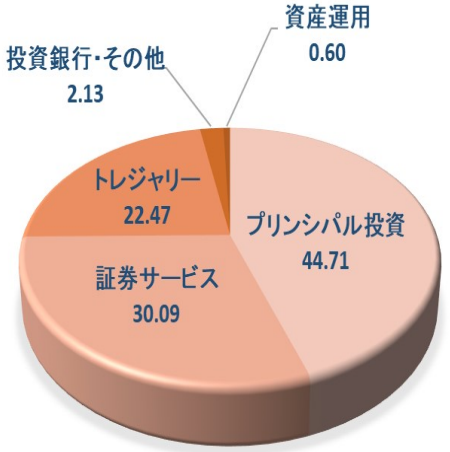
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価（VND）	51,800	PER（倍）	26.49
52週高値	57,700	PBR（倍）	2.99
52週安値	16,657	時価総額（百万）	33,924,338

●発行済株式数(百万株)　654.91　（2021/06/30時点）

【証券ブローカー最大手】
ベトナムで最大手の証券会社。大和証券グループが19.62%を出資している。①プリンシパル投資（自己資金による投資）、②証券サービス（売買仲介・金融商品販売、信用取引など）、③トレジャリー（自己資産の管理・運用）、④投資銀行（IPO、増資、財務リストラ、M&Aなど）、⑤資産運用の5つの事業を展開する。売買仲介の市場シェアは、過去7年連続で業界トップを誇る（18～20年のシェアは17.44→13.31→11.87%）。
【21年の市況は好調】
20年に続き、21年1～11月の株式市況も好調に推移している。同年11月末のホーチミンVN指数は1478.44ポイントに達し、前年末の1103.87ポイントから33.9%上昇。11カ月で前年1年間の伸び（14.9%上昇）を大幅に上回っている。こうしたなか、1～11月の出来高は、前年同期比130%増の1707億株に拡大。売買金額も267%増の4872兆ドン（約24兆円）に伸びている。なお、12月にはホーチミンとハノイの証取を100%子会社とするベトナム証券取引所が発足。22年から正式に事業を開始する。
【中間増収増益】
21年6月中間期は44.0%増収、90.7%増益で推移している。株式市場の活況を背景に、証券サービス部門の収入が前年同期比178.6%増の1兆6676億ドンに膨らんだことが増収の要因。また、プリンシパル投資部門が9.9%増の1兆2012億ドンに伸びたことも寄与している。事業コストの抑制で利益も拡大。営業経費（売上原価に相当）を29.9%増の1兆4412億ドンにとどめたことで、最終的に2倍近くの増益を達成している。

●株価チャート　（13週移動平均）

●売上構成(%)　（2020/12/31 時点）



※総売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	3,938,662	1,304,930	2,428	1,000	株式配当16%
2019/12	3,301,484	909,201	1,430	1,000	-
2020/12	4,575,555	1,257,372	1,955	1,000	-
2020/6（中）	2,272,521	532,505	961	-	-
2021/6（中）	3,271,770	1,015,296	1,504	-	-

●主要業務
証券売買仲介、自己売買、アドバイザリー、ポートフォリオ管理、引受、証券保管など

●上場年 2007/10/29　●決算期 12月

●URL
http://www.ssi.com.vn

本社

STK 社内コード: Y5569

センチュリー合成繊維

Century Synthetic Fiber Corporation

市場: ホーチミン　　繊維

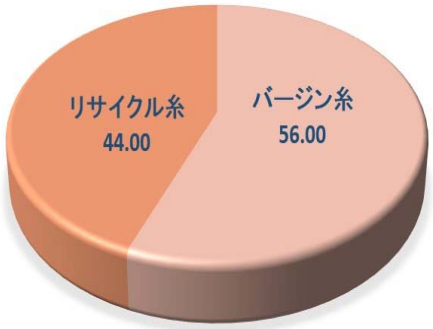
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	56,600	PER (倍)	27.06
52週高値	70,600	PBR (倍)	3.44
52週安値	19,687	時価総額 (百万)	3,859,554

●発行済株式数(百万株) 68.19 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【ポリエステル長繊維糸メーカー】
ポリエチレンテレフタレート(ポリエステルの一種。ペットボトルなどの原料)を加工し、ポリエステル長繊維糸を製造。クチとチャンバンに2工場を置く。生産能力はFDY(Fully Drawn Yarn＝延伸糸)、POY(Partially Oriented Yarn＝半延伸糸)、DTY(Drawn Textured Yarn＝延伸加工糸)を合わせて6万トン。業界4位の生産能力を誇る。これらの糸は、自動車シートカバー、水着、カーテン、スポーツシューズなどの材料として幅広く利用されている(以上、全て20年末時点)。国内で販売するほか、日本、韓国、台湾、タイ、米国など海外にも輸出している(20年輸出の売上比率は約40%)。リサイクル糸にも注力。環境保全と持続可能社会の実現に向け、リサイクル糸(使用済のペットボトルなどのリサイクルで得られた原料を使った糸)の生産体制作りに取り組んでいる。同製品の売上比率は16年から20年に3→44%と急上昇した。25年には100%を目指す。
【研究開発(R&D)も積極展開】
新製品として従来の染色糸に代わり、ドープ染色糸を開発した。さらに、リサイクル糸にUVカット・速乾・伸長の機能を付加した糸など高付加価値製品も開発し、新たなニーズに対応している。
【中間増収増益】
21年6月中間期は23.9%増収、156.6%増益。米国、EU、日本で行動制限が緩和されるなか、同地域を市場とするアパレルメーカーからの受注が伸びたことが増収につながった。事業コスト抑制で利益も拡大。売上原価率が86.7→80.4%に低下したことに加え、支払利息の減少によって、財務費用が73.8%縮小したことで、最終利益は2.6倍に拡大した。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	2,407,703	178,352	2,781	1,500	-
2019/12	2,228,985	214,423	3,163	1,500	有償増資10:1
2020/12	1,765,666	144,361	2,091	1,500	-
2020/6 (中)	868,921	54,910	785	-	-
2021/6 (中)	1,077,013	140,925	1,993	-	-

●主要業務
ポリエステル長繊維糸の生産、販売

●上場年 2015/09/30　●決算期 12月

●URL
http://www.theky.vn

同社サイトトップページ

VCB 社内コード: Y3351

ベトナム外商銀行 ［ベトコムバンク］

Joint Stock Commercial Bank for Foreign Trade of Vietnam

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄（21年7月発表時点）　銀行

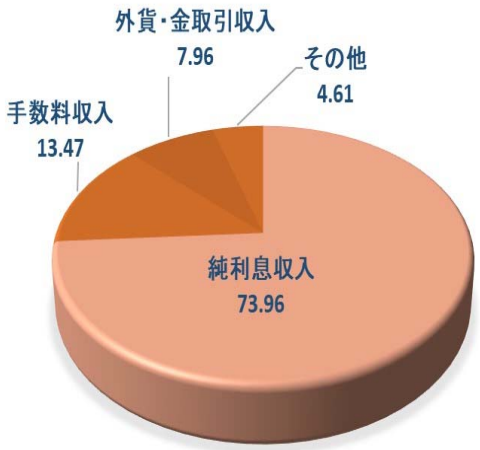
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価（VND）	78,800	PER（倍）	17.62
52週高値	90,735	PBR（倍）	2.78
52週安値	66,193	時価総額（百万）	292,259,744

●発行済株式数(百万株)　3,708.88　（2021/06/30時点）

●株価チャート（13週移動平均）

【国有の商業銀行大手】
主要株主はベトナムの中央銀行と日本のみずほ銀行。それぞれ74.8%と15.0%を保有する。ハノイに本店を置き、国内に572カ所(内、支店は116)の拠点を持つ。総資産は1328兆ドン。業界全体の約1割を占めている(以上、全て20年末時点)。顧客別の融資比率は、20年末時点で大企業向けが46.5%、中小企業向けが8.3%、個人向けが45.2%。15年末時点(比率はそれぞれ72.4%、7.9%、19.7%)との比較では、個人向けの伸びが目立っている。収益が持続的に拡大。15年から20年に売上高は2.3倍、純利益は3.5倍に膨らんだ。一方、不良債権比率は1.84→0.62%に低下した。
【新型コロナウイルスの経済への影響と中銀の対応】
新型コロナウイルスの影響を受け、ベトナムの国内総生産(GDP)成長率は、20年に2.91%と過去10年間で最低の水準に減速した。こうしたなか、ベトナムの中央銀行は景気のテコ入れ策として、国有銀行に貸出金利や手数料の引き下げを要請している。
【中間増収増益】
21年6月中間期は24.2%増収、23.6%増益で推移している。貸出残高が前年同期比で19.6%増と伸びるなか、純利息収入が23.8%増の21兆1780億ドンに膨らんだことが増収の要因。また、手数料収入が69.3%増と好調だったことも寄与している。事業コストの抑制で利益も拡大。営業経費(売上原価に相当)の経常収益(売上高に相当)に占める比率が34.9→33.3%に低下したことで、貸倒引当金繰入額の拡大(37.2%増)を吸収し、最終的に2割増益を確保した。

●売上構成(%)（2020/12/31 時点）



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	経常収益 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	39,278,433	14,605,578	3,323	800	-
2019/12	45,693,391	18,582,254	4,406	800	株式配当27.6%
2020/12	49,062,541	18,451,311	4,470	1,200	-
2020/6（中）	23,019,041	8,788,254	2,370	-	-
2021/6（中）	28,588,897	10,862,683	2,929	-	-

●主要業務
商業銀行としてユニバーサルバンキング、関係会社によるリース、証券、生保、送金など各種金融サービス

●上場年　2009/6/30　●決算期　12月

●URL
http://www.vietcombank.com.vn

本社

VHC 社内コード: Y3373

ビンホアン

Vinh Hoan Corporation

市場: ホーチミン　　水産

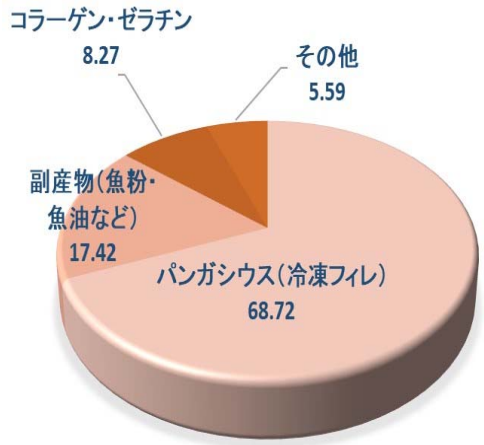
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	62,800	PER (倍)	15.88
52週高値	66,600	PBR (倍)	2.10
52週安値	33,519	時価総額 (百万)	11,426,460

●発行済株式数(百万株) 181.95 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【食用淡水魚パンガシウスの最大手加工輸出企業】
主力事業はパンガシウス(ナマズの一種)の養殖・加工・輸出。同魚種の輸出金額で、業界トップ(シェア15.8%)を誇る。輸出額は2億3530万米ドルで、売上高全体の84.3%を占める。米国(輸出全体の35%)をはじめ、ヨーロッパ(18%)、中国(17%)など47ヵ国に輸出している。ヨーロッパ向けは、前年比35%増と急成長。英国が63%増と大幅に伸びたほか、EUベトナム自由貿易協定(EVFTA)の発効による価格競争力の向上が寄与した(以上、全て20年の数字)。パンガシウス以外では、15年からスタートしたコラーゲン・ゼラチン商品にも注力。生産ラインの増強に伴い、21年の同部門は40%増収、20%増益を見込む。なお、外国人の株式保有制限は撤廃されている。
【米国向け輸出は拡大基調】
米国向けの輸出額は、21年7、8、9月にそれぞれ前年同月比で31%、41%、79%増加。同年中間期と同様に、拡大傾向が続いている。背景には、同社が輸出するパンガシウスに対し、米国が6月に反ダンピング税の免除を決定したことがある。
【中間増収増益】
21年6月中間期は25.4%増収、4.0%増益で推移している。米国と中国向けの輸出額がそれぞれ42%と50%ずつ拡大。これに伴い、主力である冷凍フィレの売上高が前年同期比20.7%増の2兆8880億ドンに拡大したことが増収につながった。また、副産物が63.6%増の7775億ドンに伸びたことも寄与している。一方、事業コストが利益の伸びを抑制。主に物流コストの増加によって、販管費が1511億→2900億ドンに膨らんだことで、最終的にやや小幅な増益にとどまった。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

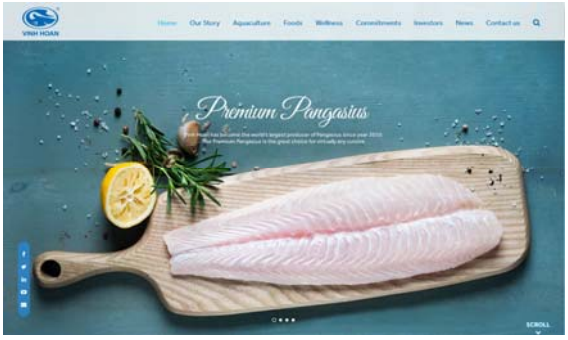
●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	9,271,329	1,442,182	15,489	4,000	-
2019/12	7,867,144	1,179,123	12,137	-	株式配当1:1
2020/12	7,037,180	719,308	3,953	2,000	
2020/6 (中)	3,293,696	376,188	2,068	-	-
2021/6 (中)	4,130,806	391,147	2,150	-	-

●主要業務
パンガシウスの養殖・加工・輸出、副産物(魚粉・魚油)、コラーゲン・ゼラチンの生産・販売など

●上場年 2007/12/24　●決算期 12月

●URL
http://www.vinhhoan.com



同社サイトトップページ

VHM 社内コード: Y5629

ビンホームズ

Vinhomes Joint Stock Company

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄 (21年7月発表時点)　不動産

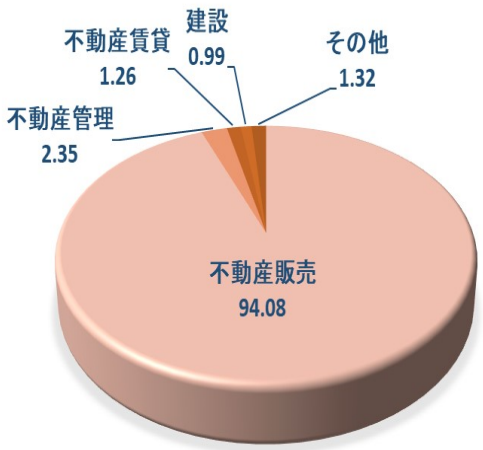
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	82,000	PER (倍)	9.86
52週高値	92,455	PBR (倍)	2.81
52週安値	63,710	時価総額 (百万)	269,739,820

●発行済株式数(百万株) 3,289.51 (2021/06/30時点)

【大手不動産デベロッパー】
不動産を中核とするコングロマリットであるビングループ(VIC)の傘下企業(株式の69.66%を保有)。ハノイ市とホーチミン市をメインに、ハイフォン市、クアンニン省など7地域で事業を展開している。開発用地として、国内最大の1万6800ヘクタールを保有。中級～最上級のマンションに注力し、同分野で45%のシェアを握る(以上、20年末時点)。新規事業にも進出。工業団地の開発に向け、20年にビンホームズ・インダストリアル・ゾーン・インベストメント社を設立した。背景には、自由貿易協定(FTA)の締結や、政府による新型コロナウイルス対策などで、ベトナムが生産拠点として注目されていることがある。21年3月には、ベトナム評価レポート社によって、最も信頼できる不動産デベロッパーに選出されている。
【日系企業と連携】
20年1月、日本の三菱商事、野村不動産と提携し、ホーチミン市で大型のスマートシティーを開発すると発表した。総事業費は約1000億円。22年に約1万戸を供給する。
【中間増収増益】
21年6月中間期は79.1%増収、54.9%増益。ビンホームズ・オーシャンパーク(ハノイ市)、ビンホームズ・グランドパーク(ホーチミン市)など主力物件の販売が好調だったことが8割増収につながった。事業コストの抑制で利益も拡大。売上原価率が59.1→49.6%に低下したことで、粗利益は前年同期比120.4%増の20兆6614億ドンに膨らんだ。ただ、投資の譲渡益急減によって、財務収入が69.7%縮小したことで、最終的な増益率は増収率を下回っている。

●株価チャート (13週移動平均)

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	38,664,328	14,284,453	4,503	1,000	株式配当1000:250
2019/12	51,626,931	21,747,376	6,502	-	-
2020/12	71,546,737	27,351,280	8,315	1,500	株式配当1000:300
2020/6 (中)	22,895,706	10,278,579	3,125	-	-
2021/6 (中)	41,001,561	15,917,392	4,839	-	-

●主要業務
不動産の開発、販売、賃貸

●上場年 2018/5/17　●決算期 12月

●URL
https://vinhomes.vn

ビンホームズ・セントラルパーク

VIC 社内コード: Y3305

ビングループ

Vingroup Joint Stock Company

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄（21年7月発表時点）　**不動産**

●株価データ	(2021/12/31 時点)	●指標	
株価（VND）	95,100	PER（倍）	56.23
52週高値	129,689	PBR（倍）	3.57
52週安値	82,222	時価総額（百万）	318,836,064

●発行済株式数（百万株）　3,352.64　（2021/06/30時点）

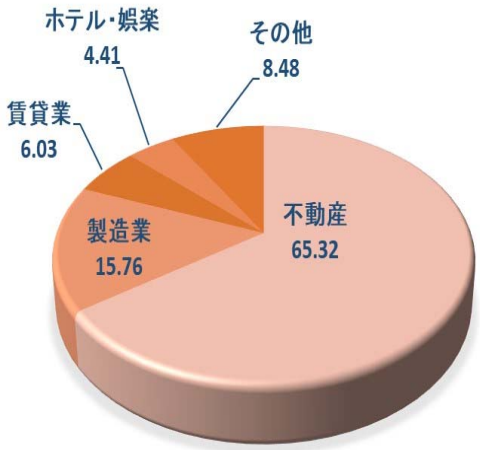
●株価チャート　（13週移動平均）

【不動産中核のコングロマリット】
不動産を中核に、製造業（自動車、スマホ、テレビ等）、ホテル・娯楽、病院、教育などの事業を幅広く展開する。創業者ファム・ニャット・ブオン会長（Forbes誌のベトナム長者番付トップ）が実質的に株式の57.95%を保有。また、韓国のSKグループも戦略的パートナーとして5.97%を出資している（20年末時点）。

【事業の再構築】
19年に今後の成長の主軸となる自動車（2輪・4輪）、スマホ、テレビの製造を本格化させる一方、小売業、農業、航空事業から撤退した。20年には2輪車4万5400台、4輪車3万1500台を販売。21～22年には、電気自動車（EV）の国内販売と欧米向け輸出を計画している。なお、スマホ、テレビは販売不振のため、21年5月に製造中止を発表。一方、同10月にEV向け電池の生産に乗り出すことを発表した。

【中間増収増益】
21年6月中間期は56.8%増収、42.7%増益と好調に推移している。不動産販売の売上高が前年同期比56.5%増の36兆7248億ドン、製造業が47.0%増の9兆3139億ドンに拡大したことが増収の要因。また、教育と病院がそれぞれ62.9%と24.5%ずつ伸びたことも寄与している。事業コストの抑制で利益も拡大。売上原価率が86.1→77.4%に低下したことで、粗利益は154.5%増の13兆7415億ドンに膨らんだ。ただ、財務収支が43.5%減の5兆3506億ドンに縮小したことや、一般管理費が84.0%増の8兆8923億ドンとかさんだことなどで、最終的な増益率は増収率をやや下回っている。

●売上構成（%）　（2020/12/31 時点）



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	121,894,401	3,823,739	1,286	-	株式配当21.0%
2019/12	130,036,014	7,545,915	2,433	-	-
2020/12	110,490,033	5,464,627	1,691	-	株式配当12.5%
2020/6（中）	38,727,259	2,484,173	769	-	-
2021/6（中）	60,736,859	3,543,925	1,097	-	-

●主要業務
不動産、ホテル・娯楽、病院、教育、製造業（自動車、スマホ、テレビ）など

●上場年　2007/9/19　●決算期　12月

●URL
http://www.vingroup.net

ビンコムセンター（ハノイ）

VJC 社内コード: Y5593

ベトジェット航空

VietJet Aviation Joint Stock Company

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄 (21年7月発表時点)　**航空**

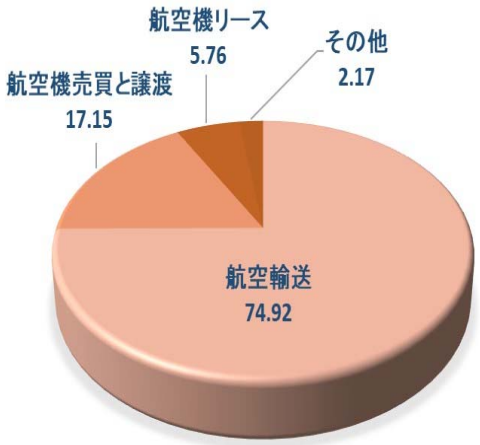
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	128,300	PER (倍)	979.38
52週高値	138,500	PBR (倍)	4.09
52週安値	105,800	時価総額 (百万)	69,488,563

●発行済株式数(百万株) 541.61 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【LCC最大手】
旅客空輸サービスを提供する民間格安航空会社。エアバスA320、A321など中小型機をメインに計71機を保有する。国内48路線、海外98路線に就航。東南アジアと東アジアのほぼ全域をカバーしている。国内シェアは40%で、格安航空会社としては業界トップを誇る。平均搭乗率が80%超、定時運行率が88%超と高水準であるほか、エアラインレーティングスから世界で最も安全なLCCに選出されている。新型コロナウィルスで経営環境が激変。搭乗客数とフライト数は右肩上がりで成長していたが、20年にそれぞれ39.8%と43.5%の減少に転じている(以上、20年末時点)。
【貨物輸送を強化】
20年に、旅客機から貨物機への転換(客室を貨物室として利用)を実施した。背景には、貨物輸送市場の回復が期待されていることがある。
【中間減収増益】
21年6月中間期は31.1%減収、168.9%増益で推移している。新型コロナウィルスの影響で、航空輸送の売上高が前年同期比47.5%減の4兆4277億ドンに縮小したことが減収の要因。特に、国際線が96.1%減の932億ドンに落ち込んだことが響いた。一方、財務収支の改善で利益は急拡大。3割減収を強いられるなか、事業費(売上原価に相当。燃料費、整備費など)を賄いきれず、2兆8818億ドンの粗損失(前年は1兆4552億ドン)を計上した。しかし、株式の売却益計上や為替差損の縮小などによって、財務収支が3857億→3兆5726億ドンに膨らんだことで粗損失をカバー。これにより、最終的に2.7倍の増益を達成している。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	53,577,241	5,335,036	9,850	3,000	-
2019/12	50,602,936	3,806,761	7,107	-	-
2020/12	18,220,293	68,591	131	-	-
2020/6 (中)	10,970,345	46,140	88	-	-
2021/6 (中)	7,556,034	124,080	235	-	-

●主要業務
国内外での航空輸送サービス

●上場年 2017/2/28　●決算期 12月

●URL
http://www.vietjetair.com

同社航空機

VNM 社内コード: Y3302

ベトナム乳業 ［ビナミルク］

Vietnam Dairy Products Joint Stock Company

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄（21年7月発表時点）　食品

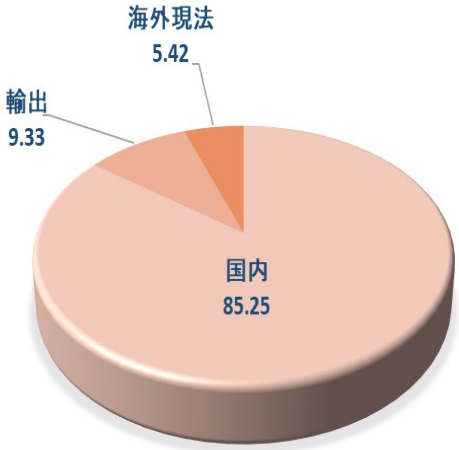
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価（VND）	86,400	PER（倍）	18.11
52週高値	113,793	PBR（倍）	5.70
52週安値	82,573	時価総額（百万）	180,572,544

●発行済株式数(百万株)　2,089.96　（2021/06/30時点）

●株価チャート　（13週移動平均）

【乳製品国内最大手】
主力事業は牛乳、ヨーグルト、粉ミルク、練乳、アイスクリームなど各種乳製品の製造・販売。国内市場シェア（推定6割）は業界トップを誇る。全国13カ所の工場で生産。販売網としては、24万の小売店、500の自社店舗、国内にあるほぼ全てのスーパーとコンビニ（計7800）でカバーされている。国外市場にも注力。海外55カ国へ輸出するほか、米国、ニュージーランド、カンボジア、ラオスに現地法人を置く。原料の生乳は、国内で13万2000頭（自社農場で3万2000頭、6600の契約農家で10万頭）の乳牛を飼育することによって確保（以上、全て20年末時点の数字）。さらに、22年からはラオスの新農場（5000ヘクタール）で2万4000頭の飼育開始を予定している。
【中間減収減益】
21年6月中間期は2.5%減収、7.3%減益。新型コロナウイルスの影響による購買力の低下を受け、国内向け売上が前年同期比4.0%減の24兆4297億ドンに縮小したことが減収につながっている。海外向け（海外現地法人を含む）が6.8%増の4兆4764億ドンに伸びたが、全体への効果は限定的だった。事業コストが利益を抑制。売上原価率が53.6→56.4%に上昇したことで、粗利益は8.3%減の12兆6092億ドンに縮小した。販管費を8.7%減に抑えたが、最終的に1ケタ減益を余儀なくされた。
【21年目標と進ちょく率】
21年通期の目標は、売上高を前年比4%増の62兆1600億ドン、税引き前利益を1%増の13兆6900億ドンとやや控えめに設定。中間期時点の進ちょく率は、それぞれ47%、49%と堅調に推移している。

●売上構成（%）　（2020/12/31 時点）



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	52,561,950	10,227,281	5,295	4,500	-
2019/12	56,318,123	10,581,176	4,565	4,500	無償増資20%
2020/12	59,636,286	11,098,937	4,770	4,100	-
2020/6（中）	29,648,334	5,836,626	2,511	-	-
2021/6（中）	28,906,076	5,410,706	2,313	-	-

●主要業務
各種乳製品の製造・販売

●上場年　2006/1/19　●決算期　12月

●URL
http://www.vinamilk.com.vn

同社製品

VRE 社内コード: Y5613

ビンコム・リテール

Vincom Retail Joint Stock Company

市場: ホーチミン　VN30指数構成銘柄 (21年7月発表時点)　**不動産**

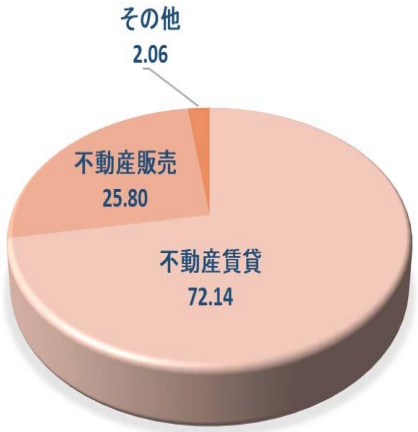
●株価データ (2021/12/31 時点)		●指標	
株価 (VND)	30,100	PER (倍)	28.72
52週高値	38,300	PBR (倍)	2.24
52週安値	25,100	時価総額 (百万)	68,396,832

●発行済株式数(百万株) 2,272.32 (2021/06/30時点)

●株価チャート (13週移動平均)

【ビングループ傘下の小売スペース賃貸会社】
不動産を中核とするコングロマリットであるビングループ(VIC)が株式の50.62%を保有する。全国43の市・省に、80カ所のショッピングモールを開発。その中にある小売スペースの賃貸を主力に、ショップハウス(店舗用不動産)の販売も行う。代表的な施設として「ビンコムセンター(店舗数7)」、「ビンコムメガモール(同4)」、「ビンコムプラザ(同54)」などがある。保有する賃貸物件の総床面積は170万平米。うち、60%以上がホーチミンとハノイに集中している(以上、全て20年末時点)。
【日系企業も進出】
カジュアルブランドのユニクロは20年3月、ハノイ市の「ビンコムセンター」内にベトナム2号店を出店した。ユニクロ以外では、ドラッグストアのマツモトキヨシが同年10月にホーチミン市の「ビンコムセンター」内に1号店をオープンしている。
【中間増収増益】
21年6月中間期は12.7%増収、39.9%増益。同年上半期に新型コロナウイルスの感染拡大が抑えられるなか、小売市場が回復したことで、2ケタの増収を確保した。事業コストの抑制で利益も拡大。売上原価率が57.6→51.9%に低下したことで、粗利益は前年同期比28.0%増の1兆7978億ドンに伸びた。さらに、販管費を0.3%増にとどめたことで、最終的に4割増益を達成している。
【下半期はコロナ禍再燃が業界に影響か】
21年上半期とは対照的に、同下半期はコロナ禍の再燃による国内小売業界へのダメージが避けられないとみられる。実際、8月以降に新型コロナウイルス感染者数の7日間平均が1万人を突破する日も出ているほどだ。

●売上構成(%) (2020/12/31 時点)



※純売上高をベースに算出。

●業績推移

	売上高 百万ドン	純利益 百万ドン	EPS ドン	配当 ドン	株配・無償等
2018/12	9,123,952	2,404,386	1,032	1,050	無償増資22.5%
2019/12	9,259,257	2,851,480	1,226	-	-
2020/12	8,328,918	2,381,855	1,048	-	-
2020/6 (中)	3,315,842	835,192	368	-	-
2021/6 (中)	3,736,776	1,168,448	514	-	-

●主要業務
大型商業施設の開発・保有と小売スペースの賃貸、店舗用不動産の開発・販売

●上場年 2017/11/6　●決算期 12月

●URL
http://www.vincom.com.vn

ビンコムセンター

アイザワのNISA
ベトナム株式取扱中

ＮＩＳＡの留意点

★NISA口座は1人1口座です。複数の金融機関で開設することはできません(金融機関を変更した場合を除く)。
★一般NISAとつみたてNISAの併用はできません。また、つみたてNISAでは外国株式のお買い付けはできません。
★NISA口座と特定口座等の課税口座との損益通算はできません。

外国株投資の主なリスクと留意点

★株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。
★外国株式は、為替の変動等により、損失が生じるおそれがあります。
★流動性が低い銘柄の場合、市況または注文の規模により、望ましい価格での売買注文の執行が常に可能とは限らず、極端な場合、取引ができないことがあります。
★投資対象国の経済的要因、政治的要因、社会情勢の混乱により、株式市況が影響を受けることがあります。また、各国の慣習や文化の違いなどにご注意ください。

お客様にご負担いただく手数料等について

外国証券の外国取引にあたっては、取引口座に応じて以下の委託手数料(税込)をいただきます。

対面口座	インターネット口座「ブルートレード」
一注文の売買代金に2.20%を乗じた金額	●インターネット注文 一注文の売買代金が3,000万円迄は売買代金に1.65%を乗じた金額 ●コールセンター注文 一注文の売買代金が3,000万円迄は売買代金に1.98%を乗じた金額 ●コンサルネット発注 一注文の売買代金が3,000万円迄は売買代金に2.20%を乗じた金額

但し現物買付注文の場合のみ、最低手数料を5,500円

ベトナム株式の売買にあたり、日本円とベトナムドンを交換する場合は、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートに1,000ドンに対して20銭のスプレッドを加算または減算したレートを適用します。
買付けの場合は加算され、売却の場合は減算されたレートが適用されます。

◆お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

LINE公式アカウントにて
アジア関連情報配信中

アイザワ証券

商号等:アイザワ証券株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長(金商)第3283号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人　日本投資顧問業協会
当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関:
特定非営利活動法人　証券・金融商品あっせん相談センター(略称:FINMAC)